教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍　新編現代の国語 問題集：東京書籍　新編現代の国語　学習課題ノート　など
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	1　自己を見つめる 「ルリボシカミキリの青」（読むこと 3時間）	□「そんな気持ち」の内容を捉え、「好きなことがあること」がなぜ大切なのかを理解し、筆者の主張を読み取ることができる。 □本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え，スピーチをすることができる。	○	○		授業態度(音読、発問) 授業内発表 定期考査
5	2　他者に出会う 「未来をつくる想像力」（読むこと 3時間）	□筆者の考える「社会」とはどのようなものか理解することができる。 □本文の内容を踏まえて、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。	○		○	授業態度(音読、発問) グループワーク 定期考査
	「水の東西」（読むこと 2時間） 【中間考査】	□日本と西洋の具体例を挙げることで、対比を通して分かりやすく論じていることに気付く。 □文章の種類を踏まえて、叙述を基に的確に捉えて筆者の主張を読み取ることの重要性を理解することができる。	○	○		授業態度(音読、発問) 授業プリントの提出 定期考査
6	5　社会とかかわる 「鍋洗いの日々」（読むこと 1時間）	□筆者の「思わく」や培った経験からの自負から、現実の厳しさを知った筆者の心情を理解することができる。 □筆者の必死の行動とは何かを理解し、それによって先輩の料理人たちがどのように変化したかを読み取ることができる。	○	○		授業態度(音読、発問) 授業プリントの提出 定期考査
	「森で染める人」（読むこと 2時間）	□都会で暮らしていた筆者が覚えた違和感と、山での暮らしで得た実感を読み取ることができる。 □自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考えようとしている。	○		○	授業態度(音読、発問) 授業プリントの提出 定期考査
	言語活動 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう（書くこと 10時間）	□憧れの職業について、実際に経験した人の話や関係する書物などから詳しい情報を集めることができる。 □「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、情報の分量や重要度などを考えて文章の構成や展開を工夫している。		○	○	授業態度 授業内提出物
7	【期末考査】					

振り返り 反省	

教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍　新編現代の国語 問題集：東京書籍　新編現代の国語　学習課題ノート　など
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	4　視野を広げる 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」（読むこと 1時間）	□身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解することができる。 □「都市部の緑の在り方」についての筆者の主張を読み取ることができる。	○	○		授業態度(音読、発問) 小テスト 定期考査
	「無彩の色」（読むこと 1時間）	□色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむことができる。 □筆者の主張を踏まえて、カラー写真と白黒写真を比較して気づいたことを話し合おうとしている。	○	○	○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
9	言語活動 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう（書くこと 10時間） ↓	□自分の決めたテーマに沿って、自分の経験を振り返ったり、人から話を聞いたりして、関連する情報を集めようとしている。 □集めた情報を参考にして、文章の構成を意識した意見文を書くことができる。		○	○	授業内提出物
10	言語活動 分かりやすい説明をしよう（話すこと・聞くこと 5時間） 【中間考査】	□「目的意識」「論理性」「相手意識」の三つの観点から「分かりやすい説明」のポイントを理解することができる。 □目的や相手に合った分かりやすい説明をしようとしている。	○	○	○	授業内発表
	7　世界とつながる 「美しさの発見」（読むこと 2時間）	□少年龍之介を叱った先生が捉えている「美しさ」と少年龍之介が捉えている「美しさ」を読み取ることができる。 □「同じ一つの心の働き」について考え，「『美しさ』を知る」ために必要なことを話し合おうとしている。		○	○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
11	「りんごのほっぺ」（読むこと 1時間）	□出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取ることができる。 □戦争体験を語り継いでいくことの意義について話し合おうとしている。	○		○	授業態度(音読、発問) 小テスト グループワーク 定期考査
	言語活動 異なる種類の文章を読み比べよう（読むこと 1時間）	□論理的な文章の種類を知り、複数の文章を比較する際の「読み比べのポイント」を理解することができる。	○	○		机間巡視
	言語活動 新聞記事を読んで意見文を書こう（書くこと 10時間） ↓	□見出しに注目して記事の内容を要約することができる。 □記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめることができる。	○	○		授業態度 授業内提出物
12	【期末考査】					

振り返り 反省	

教科名	国語	単位数	2	使用教材	教科書：東京書籍　新編現代の国語 問題集：東京書籍　新編現代の国語　学習課題ノート　など
科目名	現代の国語	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：考えを言語化することを意識し、活動に積極的に取り組む。 ③復習：授業プリントを見直し、問題集を解く。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	８　未来に目を向ける 「不思議な拍手」（読むこと 2時間）	□推論には「演繹」と「推測」があり、その違いや、論理的な文章について理解することができる。 □推測したことを前提に考えを進めたとき、カワカベさんの「拍手」について、筆者が新たに感じたことを読み取ることができる。	○		○	授業態度(音読、発問) 小テスト 定期考査
	言語活動 情報を整理しながら話し合おう（話すこと・聞くこと 4時間）	□話し合いには種類があることを理解し、「S高校の生物部」の話し合いの例を参考に、「企画会議」の進め方を理解することができる。 □提案者が各案を説明し、質疑応答をしながら検討事項を表に整理し、話し合おうとしている。		○	○	グループワーク
2	８　未来に目を向ける 「真の自立とは」（読むこと 1時間）	□筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取ることができる。 □「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げようとしている。		○	○	授業態度(音読、発問) 小テスト 授業内提出物 定期考査
	言語活動 発想を広げる方法を使って話し合おう（話すこと・聞くこと 6時間） 【学年末考査】	□「ブレーンストーミングのルール」を確認し、「『(1)出す・広げる』の例」を参考にしてアイデアを付箋に書き出そうとしている。 □貼り付けた付箋について、類似性や共通項に注目し、「グルーピングの観点の例」などを参考に分類・整理することができる。	○	○	○	机間巡視 グループワーク
3	言語活動 資料を活用して発表しよう（話すこと・聞くこと 5時間）	□テーマについて、調べる切り口と内容を絞り込み、調査を行っている。 □ポスターを作成する際、伝えたいことを明確に表現できるよう、発表方法を工夫している。		○	○	グループワーク 授業内提出物 授業内発表

振り返り 反省	

教科名	国語	単位数	3	使用教材	教科書：東京書籍　新編言語文化 問題集：東京書籍　新編言語文化　学習課題ノート　など
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている 。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	現代文編 1　随筆　生きる喜び ・さくらさくらさくら　俵万智（読むこと　近代以降　4時間）	□読みを確認し、段落を意識して、すらすらと音読することができる。 □日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。 □発問に対する自分の意見を進んで発表し合い、理解を深めようとしている。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
	3　詩歌　命をうたう ・柳青める（読むこと　近代以降　3時間） ◎言語活動　短歌を詠む（書くこと　2時間）	□短歌と俳句の違いについて確認する。 □短歌の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌にこめられた情景や心情を読み取ろうとしている。	○	○		授業内発表 授業ノート 課題プリント 定期考査
5	古文編 1　古文入門　古文の世界へ ・古文に親しむ（読むこと　古文　2時間） ・児のそら寝　『宇治拾遺物語』（読むこと　古文　3時間） ◎古文学習のしるべ　歴史的仮名遣い、品詞（読むこと　古文　2時間） 【中間考査】	□ノートの取り方、辞書の使い方がわかる。 □歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せる。 □品詞の種類について理解する。 □古文を正しく音読できる。 □現代語訳の方法を理解する。 □ストーリーを整理し内容を把握する。	○	○		授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
6	・絵仏師良秀　『宇治拾遺物語』（読むこと　古文　3時間） ◎古文学習のしるべ　活用形、用言（読むこと　古文　3時間）	□古典学習の予習の大切さを知り、進んで予習を行い授業に臨もうとする。 □火事のときの良秀の行動と心情を理解し、良秀と世間の人とのものの考え方や感じ方が違うことに気づくことができる。 □動詞・形容詞・形容動詞の活用について知る。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 小テスト 定期考査 課題ノート
7	漢文編 1　漢文入門　漢文に親しむ ・訓読の基本　訓読（読むこと　漢文　3時間） ・訓読の基本　格言（読むこと　漢文　3時間） 【期末考査】	□漢文の文構造について理解できる。 □返り点や返読文字、置き字がわかる。 □返り点に従って正しく書き下すことができる。	○		○	授業内発表 授業ノート 小テスト 定期考査
振り返り 反省						

教科名	国語	単位数	3	使用教材	教科書：東京書籍　新編言語文化 問題集：東京書籍　新編言語文化　学習課題ノート　など
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている 。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	漢文編 １　漢文入門　漢文に親しむ（続き） ・訓読の基本　再読文字（読むこと　漢文　2時間） ・故事成語　借虎威（読むこと　漢文　3時間）	□再読文字を正しく書き下すことができる。 □進んで自分の考えた書き下し文を発表しようとする。 □どのようなことを伝えようとした故事成語なのか、寓意を知る。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 小テスト 定期考査
9	現代文編 ２　小説1　触れ合う心 ・とんかつ　三浦哲郎（書くこと　3時間）	□小説の基本的な設定（時・所・登場人物）を押さえる。 □女主人・母親・息子それぞれの心情を読み取る。 □作者の描こうとしたことを、題名「とんかつ」と関連させて考え、文章にまとめる。		○	○	授業内発表 課題プリント
	古文編 ２　随筆　日々の思い ・奥山に、猫またといふものありて 『徒然草』（読むこと　古文　3時間） ・雪のおもしろう降りたりし朝 『徒然草』（読むこと　古文　2時間）	□単語調べ、現代語訳など、予習ができている。 □この章段のおもしろさはどのような点にあるか考える。 □作者と亡き人との関係について考える。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
10	・うつくしきもの 『枕草子』（読むこと　古文　3時間） ◎古文学習のしるべ　主な助動詞（読むこと　古文　2時間） 【中間考査】	□作者はどのようなものを「うつくし」と感じているかを考える。 □助動詞の種類と働きについて知る。				定期考査 課題ノート
	漢文編 ３　論語　論語の言葉 ・論語　学ぶということ（読むこと　漢文　2時間） ・論語　人間を見つめる（読むこと　漢文　1時間） ・論語　政治を考える（読むこと　漢文　1時間）	□返り点に従って正しく書き下すことができる。 □孔子の学問観について理解する。 □孔子の人間観について理解する。 □孔子の理想とする政治について理解する。	○	○		授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
	・日本人の解釈（書くこと　2時間）	□伊藤仁斎の二つの考えの共感する方について説明できる。		○	○	課題プリント
11	現代文編 ４　小説2　葛藤する心 ・羅生門　芥川龍之介（読むこと　近代以降　6時間）	□物語の概要をつかみ、主題を考える。 □下人の内面の変化を読み取る。 □小説としての表現上の工夫を理解する。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
	古文編 ４　物語　古人の生き方 ・伊勢物語　芥川（読むこと　古文　3時間） ・平家物語　木曽の最後（読むこと　古文　3時間）	□単語調べをして、現代語訳をしてみる。 □和歌の解釈を踏まえ、男の心情を読み取る。 □義仲と兼平の主従の心情を読み取り、比べる。	○	○		授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
12	【期末考査】 ・伊勢物語　筒井筒（書くこと　古文　2時間）	□和歌を現代語の短歌に直してみる。	○	○	○	課題プリント
	漢文編 ２　漢詩　漢詩を味わう ・絶句と律詩（読むこと　漢文　2時間） ◎漢文の窓　漢詩の形式ときまり（読むこと　漢文　1時間）	□詩を正確に読み、書き下す。 □作者の心情を理解する。 □詩形と押韻、対句を確認する。	○	○		授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート

振り返り 反省	

教科名	国語	単位数	3	使用教材	教科書：東京書籍　新編言語文化 問題集：東京書籍　新編言語文化　学習課題ノート　など
科目名	言語文化	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 言語活動などにおいてペア学習やグループ学習等を適宜取り入れ、学び合う雰囲気の中で学習を行う。
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、下記の評価の観点のとおり育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている 。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	現代文編 ５　小説3　現実の向こう側 ・デューク　江國香織（読むこと　近代以降　6時間）	□「私」のデュークに対する気持ちを読み取る。 □少年と過ごす「私」の気持ちの変化を読み取る。 □小説の効果的な表現について考える。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
1	古文編 ５　紀行　旅の心 ・奥の細道　平泉（読むこと　古文　4時間）	□「旅立ち」を現代語訳で読み、芭蕉の旅に対する思いを想像する。 □単語調べをして、現代語訳をする。 □書かれている場所とそこでの作者の感慨を理解する。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
2	漢文編 ４　史話　史話を楽しむ ・史話　魏武捉刀（読むこと　漢文　3時間） 【学年末考査】	□正確に書き下し文にできる。 □話の展開を把握する。 □「魏武」はなぜ使者を殺させたのかを考える。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 定期考査 課題ノート
3	現代文編　３　詩歌　Ｉwas born（書くこと　1時間） 古文編　３　詩歌　万葉集（書くこと　1時間） 漢文編　２　漢詩　漢詩と日本文学（書くこと　1時間）	□中国の漢詩と日本の和歌や現代詩について、それぞれの特徴と関連、及び共通点をまとめる。	○	○	○	授業内発表 授業ノート 課題ノート
振り返り 反省						

教科名	公民	単位数	3	使用教材	公共（東京書籍）、クローズアップ公共2022（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）
科目名	公共	対象年次	第1学年	授業の進め方	教科書を中心に板書計画を立て、定期的な小テストやポートフォリオ等で学習内容を確認しながら進める。 教科書や資料集中のテーマを取り上げ、グループワークや探究活動を実施する。
学習目標	・現代社会の諸課題を考察する際に活用できる考え方や基本的原理を身につける。 ・現代社会の諸課題に関する自分の意見を論述を通して的確に表現できるようになる。 ・現代社会の諸課題の解決方法を、身につけた知識を活用しながら追い求める姿勢を身につける。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで臨む。ポートフォリオでの振り返りも欠かさない。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集やプリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を考察するための手がかりとなる概念や理論を理解しているとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に集めている。	現代の諸課題の解決に向け、事実を基に考察し、公正に判断したり、合意形成をめざして構想したことを議論したり表現したりしている。	よりよい社会の実現に向けて、公共的な空間に生きる公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、自らの学びを調整しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	○第１部「公共」のとびら ＜第1章　公共的な空間をつくる私たち―社会のなかの自己＞ (1)現代社会に生きる青年 1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2)社会的な関係のなかで生きる人間 1　個人として尊重される人間 2　社会的な存在としての人間	○青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに，青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 ○現代社会で生きる上で何が課題なのか，現代社会の特質やキャリア開発の意義，社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解する。 ○カントやJ.S.ミルの考え方の理解を基に，人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に考察する。 ○アーレントやハーバーマス，和辻哲郎の思想の理解を手がかりに，社会的な存在としての人間のあり方について考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
5	3　伝統・文化のなかの人間 ＜第2章　公共的な空間における人間としての在り方生き方 共に生きるための倫理＞ 1　功利主義と幸福の原理 2　義務論と公正の原理 〔活用　生命倫理について考える〕 【中間考査】	○丸山真男の考え方を手がかりに，ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し，そこにおける課題について考察する。 ○行為選択の理由付けについて，目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ○目的論に関して，帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解する。 ○義務論について，カントの道徳法則や自律の意味について理解する。 ○社会的不平等の是正について，ロールズの考え方やセンの考え方を理解する。 ○先人の思想を手がかりに，思考実験を用いて，課題解決の方法について考察し議論する。	 ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
6	＜第3章　公共的な空間における基本的原理―私たちの民主的な社会＞ 1　公共的な空間における協働とは 2　民主主義とは 3　立憲主義とは 4　人権保障の意義と展開 第2部　自立した主体として社会に参画する私たち ＜第1章　民主政治と私たち＞ テーマ1　民主政治と政治参加 1　私たちの民主政治 2　地方自治のしくみと役割 【期末考査】	○社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割，及びそれぞれの課題について理解する。 ○社会における意見や利害の調整，意思決定における民主主義の意義，それらの課題について理解する。 ○立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察する。 ○人間の尊厳と平等について，その意義，歴史的展開について理解する。 ○政治の働き，民主主義の具体的な姿について理解するとともに，現在の民主主義の課題について考察する。 ○地方自治の原則としくみ，地方財政のしくみと課題，住民参加の形態と意義について理解するとともに，地方自治の課題について考察する。	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
7	3　国会のしくみと役割 4　内閣のしくみと役割 5　政治参加と選挙 6　政党と利益集団 7　メディアと世論	○三権分立と国会の地位，国会の役割と権限，国会の構成と運営について，実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ○内閣の役割について，実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ○有権者の意思をよりよく反映する視点から，日本の選挙制度について考察する。 ○政党や利益集団の役割，政治資金にかかわる課題について考察する。 ○世論形成に及ぼすメディアの役割，正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。	○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】

振り返り 反省	

教科名	公民	単位数	3	使用教材	公共（東京書籍）、クローズアップ公共2022（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）
科目名	公共	対象年次	第1学年	授業の進め方	教科書を中心に板書計画を立て、定期的な小テストやポートフォリオ等で学習内容を確認しながら進める。 教科書や資料集中のテーマを取り上げ、グループワークや探究活動を実施する。
学習目標	・現代社会の諸課題を考察する際に活用できる考え方や基本的原理を身につける。 ・現代社会の諸課題に関する自分の意見を論述を通して的確に表現できるようになる。 ・現代社会の諸課題の解決方法を、身につけた知識を活用しながら追い求める姿勢を身につける。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで臨む。ポートフォリオでの振り返りも欠かさない。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集やプリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を考察するための手がかりとなる概念や理論を理解しているとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に集めている。	現代の諸課題の解決に向け、事実を基に考察し、公正に判断したり、合意形成をめざして構想したことを議論したり表現したりしている。	よりよい社会の実現に向けて、公共的な空間に生きる公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、自らの学びを調整しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8	＜第2章　法の働きと私たち＞ テーマ1　法や規範の意義と役割 1　法と社会規範の役割 2　法の成立と適用	○道徳を含む社会規範における法の特色，法の役割，法の区分とそれぞれの特色について理解する。 ○法案の作成と提出，民事裁判と刑事裁判，裁判における法の適用，法の解釈の意味などについて理解する。	○ ○	○	○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
9	テーマ2　市民生活と私法 〔追究しよう　現代の市民生活における私法の役割と意義は何か？〕 1　市民生活と法 2　多様な契約 3　消費者の権利と責任 テーマ3　国民の司法参加 〔追究しよう　国民が司法に参加するうえで考えるべきことは何か？〕 1　司法のしくみと役割 2　刑事司法と司法参加の意義 【中間考査】	○私法の性格，私法の三つの原則，過失責任の原則について理解する。 ○契約の種類とその特色，契約自由の修正が必要な理由について考察する。 ○消費者契約や消費者法制が，消費者の権利とその尊重，自立支援をめざしていることについて具体的な例をとおして考察する。 ○司法権とその独立，裁判制度のしくみ，違憲審査権について理解する。 ○刑事司法のしくみや原則，刑事司法の課題，裁判員制度や検察審査会制度について理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
10	＜第3章　経済社会で生きる私たち＞ テーマ1　現代の経済と市場 1　私たちと経済 2　市場経済のしくみ 3　国民所得と経済成長 テーマ2　市場経済における金融の働き 1　金融のしくみと働き 2　中央銀行の役割と金融環境の変化	○経済循環について，経済主体を挙げながら説明できるようになる。 ○市場経済における価格の働き，市場の失敗と政府の役割について，実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ○景気変動や物価の変動，インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか考察する。 ○金融と金融システムが日々の生活と密接に関わることに気づく。 ○中央銀行の役割や金融政策について理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
11	テーマ3　財政の役割と持続可能な社会保障制度 〔追究しよう「持続可能な財政」を実現するためにどうするべきだろうか？〕 1　財政の働き 2　財政の課題 3　社会保障の考え方 4　社会保障の課題とこれから 【期末考査】	○財政の三つの機能，財政政策，財政のしくみや租税法律主義などについて，実際の事象とも関連させながら理解する。 ○財政問題について，資料を読み取りながら問題解決の方向性について考察する。 ○社会保障の意義と歴史，日本の社会保障制度について，実生活とのかかわりも含めて理解する。 ○今後の社会保障制度をどのように展望するか考える。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
12	＜第4章　私たちの職業生活＞ テーマ1　働くことの意義と職業選択 1　働くということ 2　多様な職業選択 テーマ2　労働者の権利と雇用・労働問題 1　労働者の権利 2　現代の雇用・労働問題	○働くことの意義，産業社会の発達と職業の変化，労働市場の役割などについて，実際の職業や労働のあり方も含めて理解する。 ○職業選択の多様化とこれからのキャリア形成について考察する。 ○労働者の権利保障が必要であることについて考察する。 ○仕事と家庭生活の両立，男女格差の解消，安定した雇用などにかかわる課題とその解決の方向性について考察する。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】

振り返り 反省	

教科名	公民	単位数	3	使用教材	公共（東京書籍）、クローズアップ公共2022（第一学習社） 公共ワークノート（東京書籍）
科目名	公共	対象年次	第1学年	授業の進め方	教科書を中心に板書計画を立て、定期的な小テストやポートフォリオ等で学習内容を確認しながら進める。 教科書や資料集中のテーマを取り上げ、グループワークや探究活動を実施する。
学習目標	・現代社会の諸課題を考察する際に活用できる考え方や基本的原理を身につける。 ・現代社会の諸課題に関する自分の意見を論述を通して的確に表現できるようになる。 ・現代社会の諸課題の解決方法を、身につけた知識を活用しながら追い求める姿勢を身につける。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで臨む。ポートフォリオでの振り返りも欠かさない。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集やプリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を考察するための手がかりとなる概念や理論を理解しているとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に集めている。	現代の諸課題の解決に向け、事実を基に考察し、公正に判断したり、合意形成をめざして構想したことを議論したり表現したりしている。	よりよい社会の実現に向けて、公共的な空間に生きる公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、自らの学びを調整しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
1	＜第5章　国際社会のなかで生きる私たち＞ テーマ1　国際社会のルールとしくみ 〔追究しよう　国際社会の課題を解決するためにどのようなルールが必要か？〕 1　国際社会の成り立ち 2　国際連合の役割 テーマ2　国際社会と平和主義 〔追究しよう 国際社会の平和と安全を実現するには？〕 1　日本の平和主義と冷戦 2　冷戦後の世界と日本	○有限な資源を将来にわたってどのようなルールの下で維持・管理するのか，漁業をめぐる国際社会の課題を理解する。 ○国際社会の成立とその特色，国際法の意義と役割，国際社会の主体の変化などについて，実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ○国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。 ○核兵器をめぐる世界の動きを，核拡散の現状，国連における核兵器禁止条約，INF全廃条約の失効などから理解する。 ○平和主義と日本国憲法第9条，自衛隊と日米安全保障条約，戦後日本の防衛政策について，実際の事象とも関連させながら理解する。 ○冷戦後の世界の動き，冷戦終結後の日本の安全保障政策，自衛隊と海外派遣などについて，実際の事象とも関連させながら理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
2	テーマ3　国際平和への課題 〔追究しよう　国際社会における責任ある行動とは何か？〕 1　現代の紛争とその影響 2　平和な国際社会に向けて テーマ4　グローバル化する国際経済 〔追究しよう　経済のグローバル化は現代社会にどのような影響をもたらしたか？〕 1　貿易のしくみ 2　国際金融のしくみと動向 【学年末考査】	○人権保護のための他国や国際機関の武力介入について，多面的・多角的に考察し議論する。 ○紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。 ○平和の意味，外交を通じた平和の実現の意義，日本の立場と役割について，実際の事象とも関連させながら理解する。 ○拡大するサービス貿易，「プラットフォーマー」の国境をこえた展開を例に経済のグローバル化の現状と課題について理解する。 ○自由貿易と保護貿易，自由貿易の推進に向けた体制，国際収支統計の意味について，実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ○為替のしくみと外国為替市場，国際通貨制度とその変化，国際金融の動向について，実際の経済的事象とも関連させながら理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 定期考査【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
3	3　グローバル化と今日の国際経済 4　国際経済の諸課題 第3部　持続可能な社会づくりに参画するために 1　探究のイメージをつかもう 2　探究プロセス	○現在の国際経済秩序と動き，地域統合の歴史と現在，台頭する新興国の動きなどについて，実際の事象とも関連させながら理解する。 ○南北問題の背景と推移，人口・食料問題，格差の是正に向けた取り組みについて，実際の事象とも関連させながら理解する。 ○現代の諸課題について，探究的な課題を設定し，課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。 ○探究の結果や自らの主張を論拠を明確にして説明したり表現したりする。	○ ○	○ ○	○ ○	小テスト、学習プリント【知】【思】 授業態度（出欠含む）【主】 ポートフォリオ【主】 発問評価【主】
振り返り 反省						

教科名	地理歴史	単位数	3	使用教材	・新詳地理Ｂ（帝国書院）　・サクシード地理B（啓隆社） ・新詳高等地図（帝国書院） ・新詳地理資料COMPLETE2022　（帝国書院）　・地理統計2022版
科目名	地理B	対象年次	2年	授業の進め方	教科書の内容をもとにした授業プリントを使いながら、資料集や地図帳も参照する。
指導目標	・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、地理的な理解を深める。 ・多様な風土や文化を学び、互いに尊重し認め合う態度を育てる。			学習方法 （留意点）	授業：基本的には授業プリントを埋めながら理解する。グループワークなどの学習活動も取り入れる。 復習：予習がない分復習に力を入れる。まずは授業プリントの内容を振り返る。その際、各教材の対応ページも参照すること。スタディノートも課題に出すが、指定した問題だけでよいので集中して取り組むこと。

＜評価の方法＞
定期考査の結果が主な評価対象だが、提出物の状況・授業態度を総合的に評価する。

＜提出物＞
授業ノート、サクシード地理B、課題プリント

月	単元・学習項目	頁	学習目標	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題
4	第Ⅰ部　さまざまな地図と地理的技能 1章　地理情報と地図 1節　地図の発達 2節　地図の種類とその利用 3節　地理情報の地図化 2章　地図の活用と地域調査	6～8 9～13 14～17 18～26	□地図のさまざまな図法とその特徴を理解できる。 □時差のしくみと計算のしかたを理解できる。 □地図記号や等高線などの使い分けを理解し、さまざまな地形図を読み取ることができる。			
5	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察 1章　自然環境 1節　世界の地形　地球規模の大地形 1　地形の成因 2　地球規模の大地形 【中間考査】	28 29	□世界の地形がどのように形成されたか大まかに知ることができる。また地形の地理的な特徴を説明できる。 □プレートテクトニクス・プルームテクトニクスについて理解することができる。			
6	2　地球規模の大地形 ・地形図の活用と地域調査	29 18～26	□それぞれのプレートの境界で見られる大地形についての特徴を知る。 □火山活動と地震による災害についてを理解することができる。 □造山運動による褶曲山脈の特徴を理解することができる。 □地形図の読図をする上で、地図記号や等高線などの意味を理解する。			
7	【期末考査】 3　河川と海岸の小地形 4　その他の特徴的な地形	36～49	□小地形について、その特性を理解するとともに、人々の暮らしとのつながりについて考察することができる。			
8	2節　世界の気候 1　気候の成り立ち	50～55	□気温・降水・風の気候3要素について、その特徴を知ることができる			
9	2　世界の気候区分 3　気候と植生と土壌 4　変化する気候	56～71 72～73 74～75	□ケッペンの気候区分をもとに、それぞれの気候がどのような特徴をもち、そこで人々がどのような生活をしているか知ることができる。 □人間の生産活動により都市気候や異常気象など気候を変化させていること理解する。			
10	3節　日本の自然の特徴と人々の生活 【中間考査】 4節　環境問題 1　世界の環境問題 2　さまざまな環境問題 3　日本の環境問題	76～81 82 83～91 92～93	□日本の自然の特徴と人々の生活の関わりについて知ることができる。 □環境問題について、成因や特徴、対策、地域的分布など、各事例ごとに知ることができる。 □日本の環境問題について、その対策を理解する。			
11	2章　資源と産業 1節　世界の農林水産業 1　農業の発達と分布 2　農業の地域区分 3　現代世界の農業の現状と課題 4　世界の林産業 5　日本の農林水産業 2節　食料問題 1　世界の食糧問題 2　発展途上国の食糧問題 3　先進国の食糧問題 4　日本の食糧問題	94～95 96～101 102～107 108～109 110～111 112 113～114 115 116	□世界の農林水産業の成り立ちや、現状と課題を知ることができる。 □ホイットルセイの農業区分について、その特徴を理解する。 □アメリカや中国などの農業生産大国について、その特徴を理解する。 □日本の農林水産業の成り立ちや、輸入に依存している現状を理解する。 □世界の人口増加と食料生産増加の差による食糧不足の問題について理解する。 □飽食と飢餓の問題がどの国々で起きているのか理解する。			
12	【期末考査】 3節　世界のエネルギー・鉱産資源 1　エネルギー資源の種類と利用 2　化石燃料の分布と利用 3　電力の利用	120 121～122 123	□世界のエネルギー、特に化石燃料の利用と分布を知ることができる。 □電力の生産方法とその課題について、理解することができる。			
1	4　鉱産資源の種類と利用 4節　資源・エネルギー問題 1　現代世界の資源・エネルギー問題 2　さまざまな資源・エネルギー問題 3　日本の資源・エネルギー問題	124～127 128 129～132 133～135	□世界の鉱産資源利用と分布を知ることができる。 □現代世界における資源・エネルギーの諸問題について知ることができる。 □日本における資源・エネルギーの諸問題について知ることができる。			
2	5節　世界の工業 1　工業の発達とその種類 2　工業の立地とその変化 3　世界の工業地域 4　現代世界の工業の現状と課題 5　日本の工業 【学年末考査】	136～137 138～139 140～143 144～145 149～152	□イノベーションによる工業の変化や工業の立地について、理解できる。 □世界の工業について，工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を理解できる。 □日本の工業の発展と変化について理解できる。			
3	6節　第3次産業 1　第3次産業の発展 2　多様化する観光産業 3　日本の観光産業	153～155 153～155 156 157	□現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を理解できる。			

教科名	地理歴史	単位数	4	使用教材	・新詳地理Ｂ（帝国書院）　・スタディノート地理Ｂ（数研出版） ・新詳高等地図（帝国書院） ・新詳地理資料COMPLETE2017（帝国書院）
科目名	地理B	対象年次	3年	授業の進め方	教科書の内容をもとにした授業プリントを使いながら、資料集や地図帳も参照する。
指導目標	・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、地理的な理解を深める。 ・多様な風土や文化を学び、互いに尊重し認め合う態度を育てる。			学習方法 （留意点）	授業：基本的には授業プリントを埋めながら理解する。グループワークなどの学習活動も取り入れる。 復習：予習がない分復習に力を入れる。まずは授業プリントの内容を振り返る。その際、各教材の対応ページも参照すること。スタディノートも課題に出すが、指定した問題だけでよいので集中して取り組むこと。

＜評価の方法＞
定期考査の結果が主な評価対象だが、提出物の状況・授業態度を総合的に評価する。

＜提出物＞
スタディノート

月	単元･学習項目	頁	学習目標	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題
4	**4章　生活文化、民族・宗教** 1節　生活文化 2節　民族と宗教	201～207 208～212	□生活文化について，衣食住の分布や地域的差異と世界的な画一化について理解する。 □民族と宗教について，世界の宗教の分布や特徴，生活との関わりについて理解する。			
5	3節　現代世界の国家 4節　民族・領土問題 【中間考査】	213～214 215～226	□現代世界の国家について，国境と領域のきまりや様々な国家の分類について理解する。 □民族・領土問題について，現代世界の民族・領土問題を大観し，日本の民族や領土，世界各地の民族の共生についての課題を理解する。	スタディノート（P．92～111）		
6	**第Ⅲ部　現代世界の地域区分** **2章　現代世界の諸地域** 1節　地誌の考察方法 2節　東アジア ・多くの民族と人口を抱える中国 ・中国の食生活と農業の変化 ・中国の工業化と経済発展 ・今後の中国の動向と日本 ・朝鮮半島の成り立ち ・韓国の産業の発展と変化	231 232～246	□中国の政治や経済、文化の開放の歴史について理解することができる。 □現在の中国が抱える諸問題について理解することができる。 □韓国とわが国との関わりの歴史について知るとともに、現在の韓国の産業、文化について理解することができる。			
7	・隣国との交流と今後の動向 【期末考査】 3節　東南アジア ・東南アジアの歴史と多様性に富む文化・民族 ・東南アジアの農業とその変化 ・ASEANの結成と工業の発展 ・ASEAN諸国の変化と諸課題	 247～255	□東南アジアの国々の位置、首都名を正確に答えることができる。 □東南アジアの民族、宗教分布、気候、農業などの特色を理解することができる。	スタディノート（P．112～119）		
8	4節　南アジア ・南アジアの歩みとヒンドゥー教 ・インドの農業と農村の変化 ・発展するインドの工業・IT産業	256～262	□南アジアの民族、宗教分布、気候、産業などの特色を理解することができる。			
9	5節　西アジアと中央アジア ・イスラームを中心とした生活文化 ・交易を軸に発展した都市 ・めぐまれた資源と産業 6節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ ・歴史的な背景によって形成された多様な文化 ・一次産品への依存が強い産業 ・人々の生活の変化と他地域との結びつき	263～269 270～276	□西アジアおよび中央アジアの民族、宗教分布、気候、産業などの特色を理解することができる。 □北アフリカおよびサハラ砂漠以南のアフリカ地域の宗教、気候、産業などの特色を理解することができる。			
10	【中間考査】 7節　ヨーロッパ ・ヨーロッパの成り立ち ・結びつくヨーロッパ ・ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策 ・移り変わるヨーロッパの工業 ・これからのヨーロッパ	 277～288	□ヨーロッパの国々の位置、首都名を正確に答えることができる。 □ヨーロッパの民族、宗教分布、気候、農業などの特色を、作業を通じて理解することができる。 □EUの概要、歴史について理解することができる。	スタディノート（P．120～131）		
11	8節　ロシア ・ロシアの歴史と多様な自然環境 ・大きく変化したロシアの産業 ・極東ロシアと日本の結びつき 9節　アングロアメリカ ・移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 ・アメリカ合衆国の人口と都市 ・世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国 ・進展する科学技術と産業	289～294 295～307	□ロシアの自然環境から、気候や産業、鉱工業について学び、周辺諸国との関係について理解することができる。 □北アメリカの歴史と民族について、その特徴を理解することができる。 □北アメリカの経済や先端技術について、主としてEUや日本、ASEANと対比して理解することができる。			
12	・世界の中のアメリカ合衆国 ・アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ 【期末考査】 10節　ラテンアメリカ ・ヨーロッパ社会の影響が強い文化 ・大土地所有制と農業の変化 ・鉱山資源を基盤とした工業化と生活の変化	 308～315	□南アメリカの歴史に触れるとともに、各地域の気候や産業について理解することができる。	スタディノート（P．132～147）		
1	11節　オセアニア ・オセアニアの移民の歴史と多文化社会 ・モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき ・資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき ・アジア諸国に輸出される農畜産物 3章　現代世界と日本 ・日本の経済 ・日本が抱える地理的諸課題	316～323 324～329	□オセアニア地域の歴史や気候、農畜産業について学び、日本やアジアとのつながりを理解することができる。 □これまでの日本経済の歩みに加え、今後の経済成長および展望について考察することができる。			
2	【学年末考査】			スタディノート（P．148～159）		
3						

教科名	地理歴史	単位数	3	使用教材	教科書：実教出版　高校日本史Ｂ新訂版 資料集：浜島書店　プロムナード日本史 ワーク：山平商会出版事業部　ポテンシャル日本史 基礎力養成編
科目名	日本史B	対象年次	2年	授業の進め方	教科書を基本に進めていく。
指導目標	・古代から近世までの日本の歴史を、世界史や郷土の歴史、身近な事象と関連付けて考察する。 ・社会の形成や文化の特色を多角的・多面的に捉えて現代社会との比較を行い、よりよい社会のあり方について判断する能力を育てる。			学習方法 （留意点）	・授業：板書のほか、発言事項なども含めてノートを作る。 ・毎回の授業でポートフォリオへの記入による振り返りを行う。

＜評価の方法＞
・定期考査の点数を基本として、授業態度や課題の提出状況、出席状況などを総合的に判断する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題
4	第1章　文化と国家の形成 1：日本列島の旧石器文化 2：縄文時代の社会と文化 3：弥生時代の社会と文化 4：小国の分立から倭国の形成へ	 12、13 14、15 16、17 18、19	□縄文時代、弥生時代の文化の基本性格について理解できる。 □主に遺跡の出土品や葬制などから、縄文時代と弥生時代との比較ができる。			
5	5：ヤマト政権の形成 6：倭の五王とヤマト政権の勢力伸長 7：氏姓制度と群集墳の出現 第2章　古代国家の確立 1：飛鳥時代の政治と文化 【中間考査】	20、21 22、23 24、25 28、29	□小国の分立、ヤマト政権の成立について、史料や遺跡、古墳との関連性を理解できる。 □古墳文化の内容を知る。 □ヤマト政権が摂取した大陸文化の内容を理解できる。			
6	2：古代国家の形成 3：律令の成立と白鳳文化 4：遣唐使と律令政治 5：奈良時代の社会と政治	32、33 34、35 36、37 38、39	□飛鳥時代、奈良時代の諸外国との交流について、世界史的視野で理解できる。 □律令の内容と、当時の統治機構を知る。 □班田収授法の内容を知る。 □奈良時代の政治の推移について、豪族と朝廷との関係を中心に理解できる。			
7	6：国家仏教と天平文化　【期末考査】	40、41	□聖武期の政治史について、藤原氏の動きを理解できる。 □天平文化の代表的遺構や作品を知る。			
8	7：平安初期の政治と文化	42、43	□桓武天皇期の政策について、「造都」と「征夷」に大別して理解できる。			
9	8：摂関政治の確立 9：国風文化の成立 第3章　中世社会の成立 1：中世社会の土地制度 2：武士団の成立	44、45 46、47 52、53 54、55	□藤原摂関時代の展開について、その推移と定義を理解できる。 □荘園の発達過程と仕組みを理解できる。 □武士の登場が土地制度と深く関係していること、また武士の発達過程について理解できる。			
10	3：院政と保元・平治の乱 4：平氏の繁栄と治承・寿永の内乱 【中間考査】	56、57 58、59	□院政の展開と内容を理解できる。 □平氏政権の特徴や人物について理解できる。			
11	5：鎌倉幕府の成立過程 6：承久の乱と執権政治 7：地頭の荘園支配 8：農工業の発達と流通	60、61 64、65 66、67 68、69	□源平の争乱について、展開や登場人物を理解できる。 □執権政治の展開について、具体的な人名や史実について知る。 □地頭がどのような過程を経て荘園支配を強めたか理解できる。			
12	9：蒙古襲来と鎌倉幕府の衰退　【期末考査】 10：鎌倉時代の仏教と文化 11：北条氏の専制と悪党 第4章　中世社会の展開 1：建武の新政と南北朝の内乱	70、71 72、73 74、75 78、79	□元寇について、時代背景・展開・幕府の対応・乱後の様子を理解できる。 □鎌倉仏教の名称や教祖、著作や内容について理解できる。 □建武の新政の内容と失敗理由について理解できる。			
1	2：室町幕府の確立 3：室町時代の東アジアと日本 4：南北朝時代の文化と北山文化 5：室町時代の流通経済の発達	80、81 82、83 84、85 86、87	□室町幕府の機構や性格がわかる。 □室町期の対東アジア関係について理解できる。 □北山文化について、その特徴や代表的遺構、作品名等を知る。			
2	6：惣村と一揆 7：室町幕府の衰退と戦国動乱 8：戦国時代の政治と社会 9：東山文化と地方への波及 【学年末考査】	88、89 90、91 92、93 94、95	□産業経済の発展や一揆などを通じて、室町期の民衆の成長を理解できる。 □応仁の乱の①背景②直接の原因③展開、結果④乱後の状況を理解できる。 □東山文化について、その特徴や代表的遺構、作品名等を知る。			
3	第5章　統一政権の成立 1：大航海時代と日本 2：織田信長の天下布武 3：豊臣秀吉の全国統一 4：豊臣政権の対外政策 5：桃山文化	 102,103 104,105 106,107 108,109 110,111	□キリスト教の伝来について、この時代に伝来した背景や、伝来後の影響について世界史的視野で理解できる。 □信長、秀吉の政策について、具体的な内容のほか、それがどのような時代の要請によって実施されたのかを理解できる。			

教科名	地理歴史	単位数	4	使用教材	教科書：実教出版　高校日本史Ｂ 資料集：浜島書店　プロムナード日本史 ワーク：山平商会出版事業部 ポテンシャル日本史 基礎力養成編
科目名	日本史B	対象年次	3年	授業の進め方	教科書を基本に進める。
指導目標	・近世から現代までの日本の歴史を、国際環境や身近な歴史と関連付けて考察する。 ・社会の形成や文化の特色について、多角的・多面的に考察して主体的に判断する能力を育成する。			学習方法 （留意点）	・授業：板書を穴埋め式の授業プリントに記入する。

＜評価の方法＞
・定期考査の点数を基本として、授業態度や課題の提出状況、出席状況などを総合的に判断する。

＜提出物＞
・ポテンシャル日本史基礎力養成編、一問一答プリント

月	単元・学習項目	頁	学習目標	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題
4	2：室町幕府の確立 3：室町時代の東アジアと日本 4：南北朝時代の文化と北山文化 5：室町時代の流通経済の発達 6：惣村と一揆 7：室町幕府の衰退と戦国動乱 8：戦国時代の政治と社会	78、79 80、81 82、83 84、85 86、87 88、89 90、91	□室町幕府の機構や性格がわかる。 □産業経済の発展や一揆などを通じて、室町期の民衆の成長を理解できる。 □応仁の乱の①背景②直接の原因③展開、結果④乱後の状況を理解できる。 □室町期の対東アジア関係について理解できる。 □室町時代の文化について、その特徴や代表的遺構、作品名等を知る。			
5	9：東山文化と地方への波及 第5章　統一政権の成立 1：大航海時代と日本 2：織田信長の天下布武 3：豊臣秀吉の全国統一 4：豊臣政権の対外政策 5：桃山文化 6：江戸幕府の成立 7：幕府と藩の支配体制 【中間考査】	92、93 102,103 104,105 106,107 108,109 110,111 112,113 114,115	□キリスト教の伝来について、この時代に伝来した背景や、伝来後の影響について世界史的視野で理解できる。 □信長、秀吉の政策について、具体的な内容のほか、それがどのような時代の要請によって実施されたのかを理解できる。 □江戸幕府の機構や、大名統制策の内容について理解できる。	・ポテンシャル日本史 p.34～49	中間考査実施日	
6	8：鎖国と四つの口 9：身分制と村・町の支配 第6章　幕藩体制の展開 1：幕府政治の転換 2：産業の発達 3：交通と都市の発達 4：町人文化と学問の発達 【期末考査】	116,117 118,119 124,125 126,127 128,129 130,131	□幕府が禁教に踏み切った背景や、禁教の具体的な展開について理解できる。 □主に交通や農業の分野における発達の様子を理解できる。	・ポテンシャル日本史 p.50～59	期末考査実施日	
7	5：享保の改革と田沼の政治 6：商品経済の発達と社会の変化 7：蘭学と国学の普及 8：寛政の改革と異国船の接近 9：大塩の乱と天保の改革 10：民衆文化の発展	132,133 134,135 136,137 138,139 140,141 142,143	□江戸期の幕政改革の内容、各藩の政治改革の内容を理解できる。 □蘭学、国学の代表的な人物名や著作名を知る。			
8	第7章　大日本帝国の形成 1：開国と社会の変動 2：尊王攘夷から倒幕へ 3：明治維新と新政府の成立 4：文明開化と復古	 150,151 152,153 154,155 156,157	□幕府滅亡までの過程について、対立関係の把握、登場する人物、各藩の動きを知る。 □明治新政府が実施した政策の内容を理解できる。			
9	5：地租改正と富国強兵 6：アジア外交と国境問題 7：民権思想と国会開設運動 8：私擬憲法と政党の結成 9：松方財政と民権運動の激化 10：大日本帝国憲法の制定 第8章　大日本帝国の展開 1：条約改正と立憲政友会の結成 2：朝鮮政策と日清戦争 3：日清戦争後の東アジア	158,159 160,161 162,163 164,165 166,167 168,169 172,173 174,175 176,177	□民衆による議会や政党結成への運動の内容を理解できる。 □大日本帝国憲法の内容を、日本国憲法と対比させて理解できる。 □不平等条約の内容、条約改正の過程について理解できる。 □朝鮮に対する日本の姿勢や具体的な政策について理解できる。			
10	4：日露戦争と朝鮮 5：朝鮮の植民地化 6：産業革命と社会問題　【中間考査】 7：欧米文化と伝統文化の交錯 8：大正デモクラシー 9：第一次世界大戦 10：第一次世界大戦後の世界 11：日本資本主義の成長 12：米騒動と社会運動 13：普通選挙法と治安維持法 14：大正デモクラシーと文化	178,179 180,181 182,183 184,185 186,187 188,189 190,191 192,193 194,195 196,197 198,199	□帝国主義時代の世界の動向を知り、その中で日本が行った2つの戦争について理解できる。 □第1次世界大戦が勃発した背景について、特にヨーロッパの情勢について理解できる。 □大戦が与えた影響について経済面から理解できる。 □護憲運動の展開と2つの法について理解できる。	・ポテンシャル日本史 p.60～81	中間考査実施日	
11	第9章　15年戦争と日本・アジア 1：侵略戦争への序幕 2：満州事変と「満州国」 3：日中戦争 4：第二次世界大戦と日本 5：アジア太平洋戦争 6：戦時下の文化と国民生活 7：日本の敗戦	 204,205 206,207 208,209 210,211 212,213 214,215 216,217	□太平洋戦争の推移と、日本の関わりについて理解できる。 □戦争の被害、戦後のわが国の様子を学び、戦争がもたらしたものについて考察できる。			
12	第10章　戦後改革と高度経済成長　【期末考査】 1：戦後世界と日本 2：日本国憲法と民主主義体制 3：戦後改革の転換 4：戦後復興と再軍備	 222,223 224,225 226,227 228,229	□GHQの占領政策と戦後の民主化政策の内容を理解できる。 □大戦後の世界の動向を冷戦構造を中心に理解できる。 □朝鮮戦争を契機として、アメリカの対日政策が大きく転換したことを知る。	・ポテンシャル日本史 p.82～95	期末考査実施日	
1	5：サンフランシスコ平和条約 6：新日米安全保障条約 7：高度経済成長と公害 8：ヴェトナム戦争と沖縄 9：戦後の文化	230,231 232,233 234,235 236,237 240,241	□戦後日本の経済発展について知る。 □対米外交、対アジア外交の動向を理解できる。			
2	【学年末考査】			・ポテンシャル日本史 p.96～106	学年末考査実施日	
3						

教科名	数学	単位数	3	使用教材	教科書：数研出版　最新　数学Ⅰ 問題集：数研出版　基本～標準　パラレルノート数学Ⅰ 数研出版　３ROUND数学Ⅰ
科目名	数学Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	基本的に教科書を進めていく。定期的に問題集・プリントで練習する。 章末問題や確認テストなどによって確認する。
学習目標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通す。（例題を解き、疑問点をまとめておくとよい） ②復習：授業中に解けなかった問題を再度解く。週末課題として、3ROUND数学Ⅰをやる。 ③内容の確認のためにパラレルノートを解く。更なる向上を目指すために問題集に積極的に取り組む。 （事前に指示がある）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	第1章　数と式 〇多項式 〇多項式の加法・減法・乗法 〇展開の公式 〇式の展開の工夫 〇因数分解(基本) 〇いろいろな因数分解(応用)	□多項式を正しく整理することができる □多項式の計算できる □公式を利用して正しく展開できる □式の特徴をつかんで展開できる □公式を使って因数分解できる □式の特徴をつかんで因数分解できる	〇 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇	〇 〇	宿題テスト 単元テスト 学習態度 自己評価プリント
5	〇実数 〇根号を含む式の計算 〇問題演習 〇不等式 〇不等式の性質 〇1次不等式の解き方 【中間考査】	□実数、絶対値の意味が理解できる □分母の有理化などルート計算ができる □不等式の性質を正しく扱うことができる □不等式の性質を理解できる □性質に注意して計算ができる	〇 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
6	〇連立不等式 〇不等式の利用 第2章　集合と命題 〇集合と部分集合 〇共通部分、和集合、補集合 〇命題と集合 〇命題と証明 〇問題演習 【期末考査】	□共通解を求めることができる □文章を理解して立式できる □様々な集合を求めることができる □様々な集合を求めることができる □正しく条件等が求められる □論理的な証明ができる	〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇 〇	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
7	第3章　2次関数 〇関数 〇2次関数のグラフ① 〇2次関数のグラフ②	□関数をグラフ化できる □グラフの移動と式との関係が理解できる □グラフの移動と式との関係が理解できる	〇 〇 〇	〇 〇	〇 〇 〇	単元テスト 学習態度 自己評価プリント
振り返り 反省						

教科名	数学	単位数	3	使用教材	教科書：数研出版　最新　数学Ⅰ 問題集：数研出版　基本～標準　パラレルノート数学Ⅰ 数研出版　３ROUND数学Ⅰ
科目名	数学Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	基本的に教科書を進めていく。定期的に問題集・プリントで練習する。 章末問題や確認テストなどによって確認する。
学習目標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通す。（例題を解き、疑問点をまとめておくとよい） ②復習：授業中に解けなかった問題を再度解く。週末課題として、3ROUND数学Ⅰをやる。 ③内容の確認のためにパラレルノートを解く。更なる向上を目指すために問題集に積極的に取り組む。 （事前に指示がある）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	○2次関数のグラフ③	□グラフの移動と式との関係が理解できる	○	○	○	自己評価プリント
9	○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定 ○問題演習 練習問題A、練習問題B ○2次方程式	□最大値、最小値が求められる □題意をつかんで式を作ることができる □2次方程式を解くことができる	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	単元テスト 学習態度 自己評価プリント
10	○2次関数のグラフとx軸との共有点 ○2次不等式 ○2次不等式の利用 ○問題演習 練習問題A、B、問題、課題学習 【中間考査】	□共有点の座標が求められる □2次不等式を解くことができる □条件から式を作ることができる	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
11	第4章　図形と計量 ○鋭角の三角比 ○三角比の利用 ○三角比の相互関係 ○三角比の拡張 ○三角比が与えられたときの角 ○正弦定理 ○余弦定理 ○三角形の面積	□三角比が理解できる □様々なものの高さを求めることができる □基本公式を覚える □鈍角の三角比が理解できる □図を使って角を求められる □公式を使って辺や角を求められる □公式を使って辺や角を求められる □公式を使って面積を求められる	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
12	【期末考査】 ○図形の計量 ○問題演習 練習問題A、B、問題、課題学習	□様々な図形の長さを求めることができる	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	定期考査 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
振り返り 反省						

教科名	数学	単位数	3	使用教材	教科書：数研出版　最新　数学Ⅰ 問題集：数研出版　基本～標準　パラレルノート数学Ⅰ 数研出版　３ROUND数学Ⅰ
科目名	数学Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	基本的に教科書を進めていく。定期的に問題集・プリントで練習する。 章末問題や確認テストなどによって確認する。
学習目標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通す。（例題を解き、疑問点をまとめておくとよい） ②復習：授業中に解けなかった問題を再度解く。週末課題として、3ROUND数学Ⅰをやる。 ③内容の確認のためにパラレルノートを解く。更なる向上を目指すために問題集に積極的に取り組む。 （事前に指示がある）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	第5章　データの分析 〇データの整理 データと変量、度数分布表、ヒストグラム 〇データの代表値 平均値、最頻値、中央値 〇データの散らばり 範囲 四分位数、四分位範囲 箱ひげ図 外れ図 分散、標準偏差 〇データの相関 散布図、正負の相関、相関表	□データを整理できる □ヒストグラムを描くことができる □代表値が理解ができる □代表値を求めることができる □範囲を求めることができる □四分位数等が理解できる □箱ひげ図を作ることができる □外れ値を求めることができる □分散、標準偏差を求めることができる □相関表を作ることができる □相関を読み取ることができる	〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇	単元テスト 学習態度 自己評価プリント
2	〇相関係数 共分散、相関係数 〇分割表 〇仮説検定の考え方 練習問題A、問題 【期末考査】	□共分散、相関係数が理解できる □各値を簡単なもので計算できる □分割表を理科し、表を作成することができる □仮説検定の考え方を理解できる	〇 〇 〇 〇	〇 〇	〇 〇 〇 〇	定期考査 単元テスト 課題・ノート提出 学習態度 自己評価プリント
3	数学Ⅰの総合演習			〇	〇	自己評価プリント
振り返り 反省						

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 新物理基礎（第一学習社） アプローチドリル物理基礎（第一学習社）
科目名	物理基礎	対象年次	1	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	第Ⅰ章　運動とエネルギー 第1節　物体の運動 ①速さ ②等速直線運動 ③変位と速度 ④速度の合成・相対速度 ⑤加速度 ⑥等加速度直線運動(1)	・ 物体の変位や速度などの表し方について，直線運動を中心に理解する。 ・ 直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を考えることができる。 ・ 物体の加速度を理解し，等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 ・ 物体が空中を落下するときの運動を調べ，その特徴を理解する。 ・ 自由落下や鉛直投射について，式やグラフを用いて考えることができる。 (1) 等速直線運動の速さや移動距離を計算することができる。 (2) 速さと速度の違いを理解している。 (3) 速度の合成や，相対速度に関する現象を観察し，それぞれを式で表すことができる。 (4) 加速度を計算することができる。	○ ○ ○ ○			授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 実験レポート
5	⑦等加速度直線運動(2) 探究1　加速度運動とグラフ ⑧重力加速度と自由落下 【中間考査】 ⑨鉛直投射 ⑩水平投射 探究2　自由落下の加速度	(5) 等加速度直線運動の式を用いて，それぞれの物理量を計算することができる。 (6) 記録タイマーの使い方を理解し，得られた打点結果から加速度を求めることができる。 (7) 落下する物体の運動は，鉛直下向きの加速度をもつ等加速度運動であることを理解する。 (8) 速さと速度の違いを説明することができる。 (9) x－tグラフやv－tグラフから，物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 (10) 変位，速度の違いを理解し，それぞれの定義を説明することができる。 (11) 日常の現象について，合成速度や相対速度を考えることができる。 (12) 等加速度直線運動の特徴を踏まえ，グラフから変位や速度，加速度を読み取ることができる。 (13) 落下運動の特徴を理解し，式やグラフを用いて表現できる。 (14) 身のまわりの物体の運動に関心を示し，位置や変位，速度を理解しようとする。 (15) 速度が変化する日常での事象について意欲的に考え，加速度とはどのような物理量であるかを考察しようとする。 (16) 斜面を下る力学台車の加速度の測定など，積極的に実験に取り組んでいる。 (17) 物体が落下するときのようすなどに関心をもち，それらの現象を物理的に考えようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
6	第2節　力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と成分 ④力のつりあい	・ 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ・ 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い，つりあいについて理解を深める。 ・ 作用・反作用の法則を扱い，つりあう2力との違いを理解する。 ・ 運動の3法則について，観察や実験を通して理解する。 ・ 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ・ 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い，つりあいについて理解を深める。 (1) 力の表し方とともに，さまざまな力のはたらき方を理解する。 (2) 質量と重さの違いを理解し，重力，弾性力を計算することができる。 (3) ベクトルを踏まえ，力の合成・分解・成分を理解する。 (4) 2力のつりあい，3力のつりあいについて理解する。 (5) ばねばかりを用いて，はたらく力の大きさを測定できる。 (6) 作用・反作用とつりあう2力とを区別することができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○			
7	⑤作用・反作用の法則 ⑥慣性の法則 【期末考査】	(7) 直角三角形の辺の長さの比を用いて，力の分解や成分を考えることができる。 (8) 力のベクトルの性質を踏まえ，つりあいの式を考えることができる。 (9) つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 (10) さまざまな状態にある物体について，はたらく力を図示することができる。 (11) 日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し，物理学的に理解しようとする。 (12) 力のつりあいや作用・反作用の法則を確認する実験などに意欲的に取り組んでいる。 (13) 物体の慣性について，積極的に実験に取り組み，理解しようとする。		○ ○ ○ ○	○ ○ ○	

振り返り 反省	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 新物理基礎（第一学習社） アプローチドリル物理基礎（第一学習社）
科目名	物理基礎	対象年次	1	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

8	⑦力と質量と加速度の関係(1) ⑧力と質量と加速度の関係(2) ⑨運動の法則	・ 運動の3法則について，観察や実験を通して理解する。 ・ 運動方程式の立て方について学習し，さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・ 摩擦力の特徴を理解し，それを含めた運動について理解する。 ・ 水圧と浮力の関係について理解する。				
9	⑩摩擦力 ⑪流体から受ける力	(1) さまざまな運動状態における物体について，運動方程式を立てることができる。 (2) 静止摩擦力，動摩擦力の大きさを計算できる。 (3) 物体が受ける水圧や浮力の大きさを計算できる。 (4) 実験データを分析しながら，力と加速度の関係，質量と加速度の関係を考えることができる。 (5) 運動方程式を用いて，物体がどのような運動をするかを考察できる。 (6) 摩擦力を受けて運動する物体の運動方程式を立てることができる。 (7) 浮力が生じるしくみを理解する。 (8) 力と質量と加速度の間にどのような関係があるかを予想し，主体的に実験に取り組んでいる。 (9) 摩擦力や浮力など，さまざまな力を含めた物体の運動について，物理学的に理解しようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	
10	第3節　仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事の原理と仕事率 【中間考査】 ③運動エネルギー ④重力による位置エネルギー ⑤弾性力による位置エネルギー ⑥力学的エネルギー(1) ⑦力学的エネルギー(2)	・ 仕事，仕事の原理，仕事率を学習し，物理における「仕事」について理解する。 (1) 物理における仕事，仕事率を計算することができる。 (2) 力のする仕事が正，負，0になる場合のそれぞれについて説明することができる。 (3) 動滑車や斜面などを用いた場合の仕事について考えることができる。 (4) 日常における仕事との違いに留意し，物理における仕事について理解しようとする。 ・ 運動エネルギーと仕事の関係について，式を用いて理解する。 ・ 位置エネルギーについて，仕事と関連づけて理解する。 ・ 力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し，法則が成り立つ条件とともに理解する。 (1) 運動エネルギーの大きさを計算し，物体がされた仕事との関係についても式を用いて計算できる。 (2) 位置エネルギーを計算することができる。 (3) 落下運動などについて，力学的エネルギーが保存されることを，式で導くことができる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○	
11	第Ⅱ章　熱 第1節　熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱量の保存 探究3　比熱の測定 【期末考査】	(4) 運動エネルギーと仕事の関係について説明することができる。 (5) さまざまな状態における物体の位置エネルギーを考えることができる。 (6) 種々の物体の運動について，力学的エネルギー保存の法則を適用することができる。 (7) 力学的エネルギーが保存されない場合の運動も考えることができる。 (8) 中学校の学習内容を振り返り，運動エネルギー，位置エネルギーについて意欲的に考えようとする。 (9) 運動エネルギーと位置エネルギーの両者から，エネルギーについて成り立つ関係を主体的に導出しようとする。 (10) 力学的エネルギー保存の法則に関連させ，振り子の速さの測定などの実験に積極的に取り組んでいる。 ・ 熱運動，セルシウス温度，絶対温度を学習し，温度について理解する。 ・ 熱と熱量を学習したのち，熱平衡，比熱，熱容量，熱量の保存について理解する。 ・ 熱量の保存を利用し，物質の比熱を測定する。 (1) 熱運動と温度との関係を理解する。 (2) セルシウス温度と絶対温度の関係を式を用いて理解する。 (3) 熱容量と比熱の関係を学習し，熱量の保存についての式を立てることができる。 (4) 熱量計などを利用する熱量の保存に関する実験について，正しい実験操作を実行できる。 (5) 熱と温度の違いを説明することができる。 (6) 温度の異なる物体を接触させたときに，熱がどちら向きに移動するかを考えることができる。 (7) 比熱と熱容量の違いを理解し，熱量の保存を利用して比熱などの測定をすることができる。 (8) 日常でよく使われる温度と絶対温度との違いを認識し，温度と熱との関係を主体的に考えようとする。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 実験レポート
12	④物質の三態 ⑤熱と仕事 ⑥エネルギーの変換と保存	・ 物質の三態について熱運動と関連づけて理解し，熱膨張の現象を知る。 ・ 熱と仕事が同等であることを学習し，内部エネルギー，熱力学の第1法則を理解する。 ・ 熱機関と熱効率を学習し，可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・ さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち，エネルギーの保存について理解する。 (10) 物質の各状態における熱運動のようすを理解し，潜熱を計算することができる。 (11) 熱力学の第1法則を用いて，内部エネルギーの変化，外部とやりとりする仕事，熱を計算することができる。 (12) 熱機関について知り，熱効率を計算することができる。 (13) エネルギー保存の法則が常に成り立つことを理解する。 (14) 水を加熱していくときの，物質の状態と構成粒子の熱運動の関係について説明することができる。 (15) 日常の現象に関して，熱と仕事の関係を説明することができる。 (16) 圧縮発火器を用いた実験において，脱脂綿が発火する理由を説明できる。 (17) 不可逆変化や可逆変化の違いを理解している。 (18) エネルギーの利用例について，日常のさまざまな事象や現象と結びつけて理解している。 (19) 熱と仕事の関係について，日常における現象と結びつけて考えようとする。 (20) 熱力学の第1法則の意味を理解し，脱脂綿の発火など，具体的な現象に適用して考察しようとする。 (21) エネルギーとその移り変わりについて，日常での利用例と関連させて理解しようとする。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
振り返り 反省					

教科名	理科	単位数	2	使用教材	高等学校 新物理基礎（第一学習社） アプローチドリル物理基礎（第一学習社）
科目名	物理基礎	対象年次	1	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、確認プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や確認プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

1	第Ⅲ章　波動 第1節　波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③横波と縦波 ④波の重ねあわせ ⑤定常波 ⑥波の反射	・波の伝わり方について理解し，振動数と周期の関係を学習する。 ・正弦波と波，振幅，波長，周期，振動数など，波の基本的な要素について理解する。 ・一定の時間経過によって移動した波について，波形を作図できるようにする。 ・横波，縦波の特徴や，縦波の横波表示について理解する。 ・波動実験器を用いた観察などを通して，重ねあわせの原理と波の独立性について理解する。 ・重なりあった波の作図などを通して，定常波が生じるしくみを理解する。 ・パルス波の反射，正弦波の反射について，反射の仕方，反射波と合成波の作図の仕方を理解する。 (1) 水面に浮かぶ木の葉などの例をもとに，波と媒質について理解する。 (2) ひもを伝わる波の観察などを通して，波の伝わり方を理解する。 (3) 単振動の特徴を学習し，振動数と周期の関係を理解する。 (4) 波の基本的な要素を学習し，波の速さ，波長，周期(振動数)の間に成り立つ関係を式で表せる。 (5) 横波と縦波の伝わり方を理解する。 (6) 2つの波が重なりあったときの作図ができる。 (7) 定常波ができる条件を理解している。 (8) 反射の仕方を理解し，反射波の作図をすることができる。 (9) 波の伝わり方を説明することができる。 (10) 波源の振動の仕方によってどのような波形の波ができるのかを表すことができる。 (11) 縦波における疎，密の点，変位や速度の最大，最小の点を示すことができる。 (12) 横波，縦波の違いを理解し，縦波を横波のように表示できる。 (13) 波の重ねあわせ，波の独立性を踏まえ，2つの波によって生じる波形を作図することができる。 (14) 定常波の特徴を踏まえ，進行波の波長や腹，節の位置などを求めることができる。 (15) 自由端，固定端のそれぞれによる反射の仕方の違いを説明することができる。 (16) 身のまわりには，さまざまな種類の波があることを理解しようとする。 (17) ひもを伝わる波や波動実験器などの実験で，波が伝わるようすを意欲的に観察しようとする。 (18) 一定時間の経過によって進んだ波の作図を，自らの力で描こうと努力している。 (19) 横波，縦波の違いを理解し，縦波をどのようにグラフに表せるかを考えている。 (20) 波動実験器などを用いた実験において，波が重なるようすや通り過ぎるようすをよく観察している。 (21) 自由端，固定端での反射の仕方を，観察などを通して物理学的に理解しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 実験レポート
2	【学年末考査】 第2節　音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動 探究4　弦の固有振動 探究5　気柱の共鳴	・音波の伝わり方を学習し，空気中における音速と温度の関係を理解する。 ・音の3要素(音の高さ，大きさ，音色)について，音波の波形の特徴を理解する。 ・身近な現象と関連させ，音の反射について理解する。 ・うなりが生じるしくみを理解し，うなりの回数を計算することができる。 ・共振，共鳴の現象について理解する。 ・弦に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。 ・気柱に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。 (1) 音波が疎密波であることを理解し，空気中における音速と温度の関係を式で表すことができる。 (2) オシロスコープで表示した音波の波形を比較し，音の振動数，大きさを比べることができる。 (3) うなりとは何かを理解し，その観測から回数を測定することができる。 (4) 振り子の共振など，共振・共鳴がおこるしくみを理解する。 (5) 弦に生じる定常波の波長や振動数を式で計算することができる。 (6) 気柱が振動するときの定常波の波長や振動数を式で計算することができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○			
3		(7) 音の高さ，大きさなどが，音波の波形の何で表されるかを理解する。 (8) 振動数が既知のおんさと未知のおんさによるうなりの観測から，未知の振動数を求めることができる。 (9) 弦の振動における波長や振動数の関係を式で導くことができる。 (10) 閉管と開管の違いを理解し，固有振動で生じる波長と振動数の関係を式で導くことができる。 (11) たこ糸を用いた弦の固有振動に関する探究などを通じて，弦の固有振動数が張力と線密度とどのような関係にあるのかを考察できる。 (12) 気柱共鳴装置を用いた探究などを通じて，おんさの振動数を測定することができる。 (13) 身のまわりの事象や現象と結びつけ，音の伝わるようすや音が波であることの特徴を理解しようとする。 (14) うなりの観測を通じて，うなりが生じるしくみを主体的に理解しようとする。 (15) ギターやトランペットなど，楽器から出る音のしくみなどに関心をもち，意欲的に学習に取り組んでいる。 (16) 弦の固有振動の探究など，積極的に実験活動に取り組んでいる。 (17) 気柱共鳴装置を用いた探究など，積極的に実験活動に取り組んでいる。		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	

振り返り 反省	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版　改訂版新編化学基礎 問題集：数研出版　改訂版新編化学基礎準拠ノートまとめと問題
科目名	化学基礎	対象年次	2年（理系）	授業の進め方	教科書を中心に内容を理解しながら、例題や練習問題を解き、まとめを行いながら進める。 教科書にある観察、実験を実施し、対話をすることで基本的な概念や原理・法則を理解する。
指導目標	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 （留意点）	① 予習：教科書に目を通し、記述内容や実験例を把握しながら、疑問や不明な点を整理する。 ② 授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③ 復習：ノートや確認プリントを見直して学習内容を確認する。授業中に解けなかった例題、練習問題を解く。 ④ 基礎基本を固めるために、問題集のまとめで語句を確認し、ドリルや問題で演習を繰り返す。

＜評価の方法＞
定期考査、問題集、学習履歴シート、課題プリント、学習態度などを総合して評価する。

＜提出物＞
学習履歴シート、ノート、問題集、課題プリント等

月	単元・学習項目	頁	学習目標	課題の範囲	提出日	追加課題
4	序章　化学と人間生活			（数字は問題集の問題番号）		
	人間生活の中の化学	p4	□　文明の発展と金属の使用状況を説明できる			
	物質の有効性と危険性	p7	□　セラミックスとプラスチックの特徴を説明できる			
	化学の役割	p9	□　人間の生活と化学の利用との関係を説明できる	1,2		
	第1編　物質の構成と化学結合					
	第1章　物質の構成					
	混合物と純物質	p13	□　純物質と混合物が区別できる	3～5		
	物質とその成分	p18	□　単体と化合物の違いを説明できる	6～10		
5	物質の三態と熱運動	p22	□　物質の三態と熱運動の関係を説明できる	11～13		
	第2章　物質の構成粒子					
	原子とその構造	p28	□　原子を構成する粒子と個数、質量の関係がわかる	14～22		
	イオン	p33	□　イオンの構造とその成り立ちがわかる	23～27		
	元素の周期表	p36	□　電子配置と周期表の関係がわかる	28～33		
	【中間考査】			ノート、問題集	考査終了後	
6	第3章　粒子の結合					
	イオン結合とイオンからなる物質	p42	□　イオン結合の特徴を説明できる	34～39		
	分子と共有結合	p46	□　分子のできかたと結合の特徴を説明できる	40～50		
	共有結合結晶	p58	□　共有結合の特徴を説明できる	51,52		
	金属結合と金属	p60	□　金属結合の特徴を説明できる	53,54		
				55,56		
7	【期末考査】			問題集	考査終了後	
	第2編　物質の変化					
	第1章　物質量と化学反応式					
	原子量、分子量・式量	p75	□　原子量の意味を理解し、分子量、式量を求められる	57～61		
	物質量	p78	□　物質量を使って物質の量を表すことができる	62～67		
	溶液の濃度	p86	□　モル濃度の意味がわかり、濃度を求めることができる	68,69		夏休み課題
8	第2編　物質の変化					
	第1章　物質量と化学反応式					
	化学反応式と物質量	p89	□　化学反応式の係数をつけることができる	70～74		
			□　化学反応式を用いて反応量を求めることができる	75～80		
9	第2章　酸と塩基の反応					
	酸・塩基	p101	□　酸と塩基の定義、価数、強さについて説明できる	81～83		
	水の電離と水溶液のpH	p106	□　pHの定義とその性質を説明できる	84～91		
	中和反応	p110	□　中和反応とは何か説明できる	92～97		
	塩	p116	□　塩とは何か説明できる	98,99		
10	第3章　酸化還元反応					
	酸化と還元	p120	□　酸化と還元を、酸化数から説明できる	100～104		
	酸化剤と還元剤	p124	□　酸化剤と還元剤の反応から、化学反応式をつくることができる	105～110		
	金属の酸化還元反応	p130	□　イオン化傾向をもとに、反応の有無を推定できる	111～113		
	酸化還元反応の利用	p134	□　電池が酸化還元を利用していることを説明できる	114～121		
	【中間考査】			問題集	考査終了後	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版　新編生物基礎 問題集：数研出版　新課程　新編生物基礎準拠　サポートノート
科目名	生物基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、学習プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理･法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や学習プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物･現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物･現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物･現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点 知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	第1章　生物の特徴 第1節　生物の多様性と共通性 1　生物の多様性 2　生物の共通性とその由来 3　生物に共通する構造－細胞	･生物が「細胞からできている」「遺伝情報としてDNAをもっている」「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ･生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ･さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 ･さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ･生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 ･生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組んでいる。	○ ○	○ ○ ○	○	授業態度 （出欠状況含） 定期考査 学習プリント 提出課題 発問評価 実験･観察 レポート
5	第2節　エネルギーと代謝 1　生命活動とエネルギー ＜実習＞1日の消費エネルギーの算出	･生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ･ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ･実習「1日の消費エネルギーの算出」を行い、1日で消費するエネルギーの量を知る。 ･ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 ･エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○ ○ ○	○	○	
	第3節　呼吸と光合成 1　呼吸 2　光合成 3　エネルギーの流れ 4　酵素の性質 ＜実験＞カタラーゼのはたらき【中間考査】	･呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ･酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ･生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ･実験「カタラーゼのはたらき」を行い、酵素の性質を確かめる。 ･植物が有機物を得る方法について説明できる。 ･呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○ ○ ○ ○	○	○	
6	第2章　遺伝子とそのはたらき 第1節　遺伝情報とDNA 1　遺伝情報を含む物質－DNA 2　DNAの構造 ＜実験＞DNAの抽出	･DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ･DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ･実験「DNAの抽出」を行い、生物の細胞内に含まれるDNAを抽出する。 ･DNA構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合の相補的な規則性に気づき、説明できる。 ･遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○ ○ ○	○	○	
	第2節　遺伝情報の複製と分配 1　細胞周期とDNA 2　遺伝情報の複製 3　遺伝情報の分配 【期末考査】	･DNAが半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 ･体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 ･複製前後のDNA模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 ･遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○ ○	○	○	
7	序章　顕微鏡の使い方と顕微鏡観察 ＜観察＞さまざまな生物の細胞の観察 ＜観察＞体細胞分裂の観察	･顕微鏡の使い方を習得する。 ･観察「さまざまな生物の細胞の観察」を行い、さまざまな生物に、細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。 ･観察「体細胞分裂の観察」を行い、DNAの複製や分配が行われる体細胞分裂の過程を観察する。	○ ○ ○			

振り返り 反省	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版　新編生物基礎 問題集：数研出版　新課程　新編生物基礎準拠　サポートノート
科目名	生物基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、学習プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理･法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や学習プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物･現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物･現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物･現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識･技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度	
8 9 10 11 12	第2章　遺伝子とそのはたらき 第3節　遺伝情報の発現 1　遺伝情報とタンパク質 2　タンパク質の合成 3　細胞の分化と遺伝情報 4　遺伝子とゲノム 第3章　ヒトの体内環境の維持 第1節　体内での情報伝達と調節 1　体内での情報伝達 2　神経系による情報の伝達と調節 3　内分泌系による情報の伝達と調節 【中間考査】 第2節　体内環境の維持のしくみ 1　体内環境の維持 2　血糖濃度調節のしくみ 3　血液の循環を維持するしくみ 第3節　免疫のはたらき 1　からだを守るしくみ 2　自然免疫 3　適応免疫 4　免疫と健康 【期末考査】 第4章　植生と遷移 第1節　植生と遷移 1　植生とその成り立ち 2　植生の遷移 3　植生の再生					

振り返り 反省	

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：数研出版　新編生物基礎 問題集：数研出版　新課程　新編生物基礎準拠　サポートノート
科目名	生物基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、学習プリントや問題集でまとめを行いながら進める。 教科書にある簡単な観察、実験内容を生徒実験や演示実験などによって確認する。
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理･法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書に目を通し、記述内容を把握する。疑問や不明な点を整理する。 ②授業：授業時間が最も重要。授業中に完全に理解するつもりで、質問するなど、集中して授業に臨む。 ③復習：教科書やノートを見直し、問題集を解く。 ④考査前は、問題集や学習プリントを繰り返し解く。課題には必ず取り組む。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	第4章　植生と遷移 第2節　植生の分布とバイオーム １　植生とバイオーム ２　世界のバイオーム ３　日本のバイオーム					
2	第3節　生態系と生物の多様性 １　生態系の成り立ち ２　生態系における種多様性 ３　生態系における生物どうしのつながり 【学年末考査】					
3	第4節　生態系のバランスと保全 １　生態系のバランス ２　人間生活と生態系 ３　生態系の保全					
振り返り 反省						

教科名	理科	単位数	2	使用教材	教科書：第一学習社　高等学校地学基礎 整理ノート：ネオパルノート地学基礎
科目名	地学基礎	対象年次	2年(文系)	授業の進め方	教科書の内容を図や写真から身近な現象としてとらえ理解する。
指導目標	地学的な事物・事象について、図や写真から身近な問題としてとらえ、自然に対する関心や探究心を高め、科学的に考察する能力と態度を育てることにより、科学的な自然観を育成する。			学習方法 （留意点）	①地学的な現象をさまざまな資料を通して理解し、説明に必要な用語や法則を知る。 ②教科書やプリントのまとめによって、現象や考え方を整理する。

＜評価の方法＞
定期考査、提出課題（ノート、問題集、課題プリントなど）および学習態度を総合して評価する。

＜提出物＞
ネオパル、授業ノート

月	単元･学習項目	頁	学習目標	課題の範囲	提出日	追加課題
				(数字は問題集のページ)		
4	第1章 1．宇宙の構成 ・宇宙の始まり ・宇宙の広がりと銀河の分布 2．太陽 ・太陽の構造 ・太陽の組成 ・太陽の誕生と将来	4～9 10～19	□現在観察される宇宙に関する事象から、宇宙の歴史を説明できる。 □太陽の組成や構造を知る。 □太陽の誕生から将来の太陽の姿までを述べることができる。	2～3 4～5 6～7		
5	3．太陽系の中の地球 ・太陽系の構造 ・太陽系の組成 ・地球型惑星 ・木星型惑星 ・惑星、衛星以外の天体 ・生命の惑星・地球 【中間考査】	22～37	□太陽系の構造と誕生の過程を説明できる。 □地球型惑星と木星型惑星の違いとその理由を説明できる。 □なぜ地球に生命が誕生できたか述べることができる。	8～9 10～11 12～13 14～15 16～17		
6	第2章　活動する地球 1．地球の姿 ・地球の形と大きさの測定 ・地球の形と大きさ ・地球の内部構造 ・地球の構成物質 【期末考査】	46～59	□地球の形や大きさが分かった経緯を知る。 □地球内部について知る。	20～21 22～23	考査後	
7	・プレートの運動 ・プレートの収束と造山運動		□プレート運動のしくみを理解する。 □プレート運動によって引き起こされる現象を理解する。	24～25		
8	2．火山活動と地震 ・火山の分布 ・火山の地形	62～81	□火山の分布と火山地形について説明できる。	28～29 30～31		
9	・火山の噴火と火成岩 ・火成岩の種類 ・地震が発生するしくみ ・地震の動き ・地震の発生する地域		□火山の噴火の様式と火成岩について説明できる。 □地震の発生メカニズムを説明できる。	32～33 34～35 36～37 38～39 40～41		
10	【中間考査】 第3章　移り変わる地球 1．地層や岩石と地質構造 ・地層の形成 ・地層と堆積構造 ・堆積岩 ・地殻の変動 ・変成岩	88～99	□地層の形成と堆積岩について説明できる。 □地殻変動と変成岩について説明できる。	44～45 46～47 48～49 50～51	考査後	
11	2．地球環境と生物界の変遷 ・化石 ・地層の対比と同定 ・地質時代とその区分 ・先カンブリア時代 ・古生代 ・中生代	102～123	□地質時代は化石によって区分されていることを知る。 □先カンブリア時代から中生代までの地球環境と生物の変遷を理解できる。	52～53 54～55 55～57 58～61 62～63		
12	【期末考査】 ・新生代		□新生代の地球環境と生物の変遷を理解できる。	64～67	考査後	
1	第4章　大気と海洋 1.地球の熱収支 ・大気の構成 ・大気圏の特徴 ・対流圏における水の変化 ・太陽放射と地球放射 ・地球のエネルギー平衡 2.大気と海洋の運動 ・緯度によるエネルギー収支	130～141 144～155	□大気圏について知る。 □天気の変化を予想し説明できる。 □地球の熱収支について理解する。 □緯度による熱収支の違いと現象を説明できる。	70～71 72～73 74～75 76～77 78～79		
2	・風 ・大気の大循環 ・海洋の構造 ・海洋の大循環 ・大気と海洋の密接な関係 【学年末考査】		□大気の大循環を理解する。 □海洋の大循環を理解する。 □大気と海洋の相互作用による現象を理解する。	80～81 82～83 84～85 86～87	考査後	
3	第5章　地球の環境 1.地球環境の科学 ・地球温暖化 ・オゾン層の破壊 ・エルニーニョ現象とラニーニャ現象 2.日本の自然環境 ・自然の恩恵 ・季節の変化 ・気象災害と防災 ・地震災害 ・地震による被害の軽減 ・火山災害と防災	160～167 170～181	□地球温暖化の原因を述べることができる。 □エルニーニョとラニーニャ現象を説明できる。 □日本の自然環境について知る。 □各自然災害の防災方法を知る。	90～91 92～93 93 94 94 96～97 98～99 100～101		

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ 開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ　ワークブック
科目名	英語コミュニケーションⅠ	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えるとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。			学習方法 （留意点）	予習：新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業：予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習：本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして使ってみる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えている。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えようとしている。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	Lesson1: The Amazing Scenery 題材：世界の実験 形式：報告文 ・第１文型～第5文型	・英語の構文を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・英語の構文を用いて、お気に入りの場所について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・英語の構文を用いて、お気に入りの場所について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
5	Lesson2: The Mysterious History of Chocolate 題材：チョコレートの歴史 形式：報告文 ・that節 ・比較表現 【中間考査】	・英語の構文と比較を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・英語の構文と比較を用いて、好きなお菓子について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・英語の構文と比較を用いて、好きなお菓子について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
6	Lesson3:The Secrests of Top Athletes 題材：「スポーツ掛け持ち」文化 形式：報告文 ・現在完了形 ・現在完了進行形 ・過去完了形 【期末考査】	・さまざまな完了形を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・さまざまな完了形を用いて、所属するクラブや科目について、考えや気持ちを話して伝えている。 ・さまざまな完了形を用いて、所属するクラブや科目について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
7	Lesson4: Evolving Airplanes 題材：飛行機の歴史、未来の飛行機、飛行機の楽しみ方 形式：対話文 ・助動詞 ・受動態	・助動詞や受動態を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。 ・助動詞や受動態を用いて、英語で好きな乗り物について、考えや気持ちを話して伝えている。。 ・助動詞や受動態を用いて、英語で好きな乗り物について、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	○	○	○	学習プリント 言語活動 定期考査
振り返り 反省						

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ 開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ　ワークブック
科目名	英語コミュニケーションⅠ	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えるとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。			学習方法 （留意点）	予習：新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業：予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習：本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして使ってみる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えている。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えようとしている。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8 9	Lesson4: Evolving Airplanes 題材：飛行機の歴史、未来の飛行機、飛行機の楽しみ方 形式：対話文 ・助動詞 ・受動態 Lesson5: The Symbol of Peace 題材：サブールの人々の考え方、生き方 形式：報告文 ・動名詞 ・不定詞 ・形式主語 中間考査	・動名詞、不定詞、形式主語の用法について理解し、サブールに関するさまざまな情報を捉える技能を身に付けている。 ・サブールの人々の考え方や生き方について、動名詞や不定詞を活用して、自分の考えや気持ちをまとめて、伝えることができる。 ・サブールの人々の生き方を理解し、自分の考えや気持ちについて伝え合おうとしている。	○	○	○	
10	Lesson6: Serendipity 題材：セレンディピティについて ・分詞の後置修飾 ・知覚動詞 ・使役動詞	・分詞の後置修飾、資格動詞、使役動詞の用法を理解し、それらを用いたさまざまなセレンディピティに関する話しにういて、情報や要点を捉えることができる。 ・セレンディピティに関する事柄について、既習の語句や表現を用いて、相手と情報を交換したり、考えや気持ちなどを伝え合ったりしている。 ・本文を読んで、セレンディピティに関する理解を深め、相手に配慮しながら、自分の考えや気持ちを、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。	○	○	○	
11	Lesoson7: The Secrets Hidden in Vermeer's Works 題材：画家フェルメールの生涯、作品について ・関係代名詞 期末考査	・関係代名詞の用法を理解し、フェルメールの生涯や魅力について、情報や概要、要点を捉える技術を身に付けている。 ・フェルメールの生涯や作品について、関係代名詞を用いながら、論理性に注意して伝え合うことができる。 ・聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。	○	○	○	
12	Lesson8: Endangered Species in the World 題材：絶滅危惧種の動物について ・関係代名詞 ・関係副詞	・文法の用法を理解し、絶滅危惧種の動物について、情報の概要、要点を捉える技術を身に付けている。 ・絶滅危惧種につい、情報や考え、気持ちを論理性に注意しながら話して伝えることができる。 ・絶滅危惧種について理解を深め、主体的に伝え合おうとしている。	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	外国語	単位数	3	使用教材	開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ 開隆堂　APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION Ⅰ　ワークブック
科目名	英語コミュニケーションⅠ	対象年次	1	授業の進め方	予習で単語の意味を調べ、本文の意味を考える。 授業で本文の内容を理解し、文法事項を押さえる。
学習目標	日常的・社会的な話題について、概要や要点を目的に応じて捉えるとともに、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。			学習方法 （留意点）	予習：新出単語の意味を辞書で調べ、本文の内容を理解しようとする。 授業：予習がしてあること前提に、本文の内容や文法事項を確認する。 復習：本文の内容を復習し、単語の意味や文法を覚え、既習事項を書いたり話したりして使ってみる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	本文で扱われる英語の構文や文法を理解し、概要や要点を捉えることができる。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えている。	英語の構文や既習の文法を用いて、与えられたテーマに基づき、自分の考えや気持ちを英語で話して伝えようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	Lesson9: The Dream of Special Makeup 題材：特殊メイク、カズ・ヒロさんの活躍について ・条件を表す副詞節 ・仮定法過去	・条件を表す副詞節、仮定法過去の用法を理解し、本文の内容について、要点を捉える技能を身に付けている。 ・興味のある職業について、既習の語句や表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して、話して伝えている。 ・興味のある職業について理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に話そうとしている。	○	○	○	
2	Lesson10: Purifying Powder 題材：水の大切さ、小田兼利さんの活躍 ・関係代名詞what ・強調構文 ・分詞構文 学年末考査	・関係代名詞what、強調構文、分詞構文の用法を理解し、水の大切さや、小田兼利さんの活躍について、情報や概要、要点などを捉える技能を身に付けている。 ・水資源や小田兼利さんの活躍について、必要な情報を読み取るとともに、概要や要点を捉え、安心・安全な水を手に問うために必要なことは何か、考えや気持ちを論理性に注意して、話して伝え合っている。 ・水の重要性や小田兼利さんの活躍について、主体的に読み取ろうとしてい	○	○	○	
3	Reading: tupera tupera 題材：絵本について、tupera tuperaに関すること	・読み聞かせの技法を理解し、注意点に気を付けながら読むことができる。 ・絵本について、必要な情報を読み取り、読み取った情報や考え、気持ちなどを話して伝え合っている。 ・読み聞かせでは、聞き手に配慮しながら、楽しく理解してもらえるように読もうとしている。	○	○	○	
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	3（2）	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Aコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	＜集団行動＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ぶみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・ストレッチ、手軽なリズム運動 ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（ささら踊り）	□集団行動の行動様式を実践することができる □集団の約束、決まりを守って行動する □仲間と積極的に交流を図っている □意識的に体を大きく動かすことができる □音楽に合わせて振付をすることができる □感情を込めた繊細な踊りをすることができる □動きの修正や確認ができる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走 ランニングフォーム、ペース走	□自己の体力・能力を最大限に発揮できる □各区間の技術が向上している □記録を客観的に置き換えることができる □一定のペースを保つことができる	○	○	○	
6	＜サッカー＞ ・個人技能練習 ドリブル・パス・シュート練習 ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 【期末考査】	□個人技能を修得することができる □準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる □集団技能を理解し、説明することができる □味方の位置を把握し、プレーすることができる □自分の役割を理解し、説明・行動できる □審判を行うことができる □ルールを理解している □チームで協力して活動している	○	○	○	
7	＜体育理論（スポーツの発祥と発展）＞ ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックとパラリンピックの意義	□スポーツの始まりについて説明できる □スポーツへの多様なかかわり方を説明できる □オリンピックとパラリンピックの意義を説明できる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 学習プリント 発問評価 定期考査
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	3（2）	使用教材	教科書：大修館書店　　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Aコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8 9	＜サッカー＞ ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 個人・集団技能を合わせて、安全に留意してプレー	□集団技能を理解し、説明することができる □味方の位置を把握し、プレーすることができる □自分の役割を理解し、説明・行動できる □審判を行うことができる □ルールを理解している □チームで協力して活動している □安全に課題に取り組むことができる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
10	＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	□準備運動をしっかり行うことができる □自分の能力に適した課題を選択することができる □段階的に練習することができる □回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □形を崩さず技を行える □安全に課題を取り組むことができる □仲間と協力して、技能の向上に努めている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □補助などを行えている	○	○	○	
11	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【期末考査】	□個人的技能を修得することができる □味方の位置を把握して、プレーできる □ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □個人プレーではなく、集団プレーを行っている □声掛けを行えている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □安全に課題を取り組むことができる □ルールを理解している	○	○	○	
12	＜体育理論（スポーツの発祥と発展）＞ ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	□スポーツの経済的価値について説明できる □フェアプレイ、スポーツ精神を説明できる □スポーツと環境問題の関係を説明できる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 学習プリント 発問評価 定期考査
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	3（2）	使用教材	教科書：大修館書店　　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Aコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
1	＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等 静的な運動（ストレッチ等） ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動（馬跳び）	□自己の心や体の状態にきづいているか □体の調子を整えている □仲間との交流を豊かにしている □動きを持続している □ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □巧みに動けている	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
2	＜バスケットボール＞ ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） ＜バドミントン＞ ・個人技能 （各種ストローク、サービス、ルールなど） ・集団技能 （攻撃側と守備側のパートナーとの連携） 【学年末考査】	□味方の位置を把握して、プレーできる □安全に課題を取り組むことができる □個人プレーではなく、集団プレーを行っている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □個人的技能を修得することができる □安全に課題を取り組むことができる □ルールを理解している □自分の役割を理解し、説明することができる □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる	○	○	○	
3	＜歩くスキー（ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ）＞ ・用具のつけ方 （スキーブーツ、スキー板、ストック） ・基本動作 （転び方、歩き方、体重移動）	□用具を正しく身につけられる □用具の片付け方を理解している □正しい構えをとることができる □基本動作を正確に行える □スムーズに体重移動を行える □安全に留意して、行うことができる	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	3(1)	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育(武道)	対象年次	1年(Aコース)	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	剣道における基本動作、基本打突を正しく学び、得意技を増やし効果的な技を身につけさせる。また、有効打突の意味を理解し、試合をすることができる。さらに、対人技能を正しく身につける活動を通して、公正、協力、責任などの態度を育てることを目標とする。			学習方法 (留意点)	・剣道の防具、竹刀等を準備する ・3学期以降は安全面に配慮し、球技を実施する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月		学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	＜剣道における基本・礼法＞ ・防具のつけ方 （手ぬぐい・垂・胴・面のつけ方） ・礼儀作法、蹲踞の姿勢 （正座・座礼・立礼・自然体・蹲踞の仕方）	□剣道における礼法を身につけ、実践できる □防具を正しく身につけられる □蹲踞の姿勢がうまくできる □竹刀を正しく握ることができる □防具の片付け方を理解している	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
5	＜基本動作＞ ・構え、体さばき、素振り ＜基本打突＞ ・正面打ち、小手打ち、胴打ち、突き	□気剣体の一致を理解し、説明できる □送り足で前後左右スムーズに動ける □上下、斜め、胴の素振りを正しく行える □面、小手、胴を打つことができる □間合いや体さばきを理解して実践できる □竹刀や防具の打たせ方を理解している □正しい構えをとることができる	○	○	○	
6	＜対人的技能＞ ・攻め、隙への打突、出ばな技、しかけ技、応じ技 ・「構えの隙」「守りの隙」への打突 ・攻めからの基本技 【期末考査】	□対人的技能の意味を理解した技になっている □隙を見つけることを理解し、行動に移せる □面、小手、胴を目的に応じ、打たせられる □1つの技を正確に行うことができる □姿勢をまっすぐに構えることができる □基本動作を正確に行える □打突後も勢いを出し続けられる □迷わず、素早く打つことができる	○	○	○	
7	＜約束稽古＞ ・打つ役、打たせ役を決め、技の習得を図る	□自己の能力に応じた技に取り組めている □技の仕組みを理解し、効果的な稽古ができる □どの状況でも剣先は相手ののどに向いている □対人的技能の意味を理解した技になっている □約束稽古の意味を理解し実践できている	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	3(1)	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育(武道)	対象年次	1年(Aコース)	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	剣道における基本動作、基本打突を正しく学び、得意技を増やし効果的な技を身につけさせる。また、有効打突の意味を理解し、試合をすることができる。さらに、対人技能を正しく身につける活動を通して、公正、協力、責任などの態度を育てることを目標とする。			学習方法 (留意点)	・剣道の防具、竹刀等を準備する ・3学期以降は安全面に配慮し、球技を実施する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月		学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8・9	＜対人的技能＞ ・攻め、隙への打突、出ばな技、しかけ技、応じ技 ・「構えの隙」「守りの隙」への打突 ・攻めからの基本技	□対人的技能の意味を理解した技になっている □隙を見つけることを理解し、行動に移せる □面、小手、胴を目的に応じ、打たせられる □1つの技を正確に行うことができる □姿勢をまっすぐに構えることができる □基本動作を正確に行える □打突後も勢いを出し続けられる □迷わず、素早く打つことができる	○	○	○	授業態度(出席状況含む) 技能テスト 定期考査
10	＜約束稽古＞ ・打つ役、打たせ役を決め、技の習得を図る	□自己の能力に応じた技に取り組めている □技の仕組みを理解し、効果的な稽古ができる □どの状況でも剣先は相手ののどに向いている □対人的技能の意味を理解した技になっている □約束稽古の意味を理解し実践できている	○	○	○	
11	＜攻めと守りの試合＞ ＜技を限定した試合＞ 【期末考査】	□自分から進んで攻めることができる □限られた技を有効に利用できる □技に応じた動きを実践することができる □連続技を使って攻めることができる □剣先を上下に使って攻めることができる □ルールを理解している	○	○	○	
12	＜簡易試合＞ ＜自己評価＞	□攻めと守りの切り替えができる □安全に留意して、行うことができる □ルールを理解し、審判を行うことができる □礼法を正しく行うことができている □得意技を中心とした試合展開ができている □課題の達成度・反省、剣道を理解できている	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	3(1)	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育(武道)	対象年次	1年(Aコース)	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	剣道における基本動作、基本打突を正しく学び、得意技を増やし効果的な技を身につけさせる。また、有効打突の意味を理解し、試合をすることができる。さらに、対人技能を正しく身につける活動を通して、公正、協力、責任などの態度を育てることを目標とする。			学習方法 (留意点)	・剣道の防具、竹刀等を準備する ・3学期以降は安全面に配慮し、球技を実施する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月		学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	＜バドミントン＞ ・個人技能 （各種ストローク、サービス、ルールなど） ・集団技能 （攻撃側と守備側のパートナーとの連携）	□個人的技能を修得することができる □安全に課題を取り組むことができる □ルールを理解している □自分の役割を理解し、説明することができる □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
2	＜バスケットボール＞ ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【学年末考査】	□味方の位置を把握して、プレーできる □安全に課題を取り組むことができる □個人プレーではなく、集団プレーを行っている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
3						

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Bコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	＜集団行動＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ぶみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・ストレッチ、手軽なリズム運動 ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（手踊り）	□集団行動の行動様式を実践することができる □集団の約束、決まりを守って行動する □仲間と積極的に交流を図っている □意識的に体を大きく動かすことができる □音楽に合わせて振付をすることができる □感情を込めた繊細な踊りをすることができる □動きの修正や確認ができる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走 ランニングフォーム、ペース走	□自己の体力・能力を最大限に発揮できる □各区間の技術が向上している □記録を客観的に置き換えることができる □一定のペースを保つことができる	○	○	○	
6	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合（個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	□自分たちの実情にあったチーム作りができる □自分の役割を理解し、説明することができる □審判、副審、線審をすることができる □ルールを理解している □個人的技能を修得することができる □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □安全に課題に取り組むことができる	○	○	○	
7	＜体育理論（スポーツの発祥と発展）＞ ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックとパラリンピックの意義	□スポーツの始まりについて説明できる □スポーツへの多様なかかわり方を説明できる □オリンピックとパラリンピックの意義を説明できる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 学習プリント 発問評価 定期考査

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Bコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	評価の観点 思考・判断・表現	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8 9	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合（個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	□自分たちの実情にあったチーム作りができる □自分の役割を理解し、説明することができる □審判、副審、線審をすることができる □ルールを理解している □個人的技能を修得することができる □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □安全に課題に取り組むことができる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
10 11	＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	□準備運動をしっかり行うことができる □自分の能力に適した課題を選択することができる □段階的に練習することができる □回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □形を崩さず技を行える □安全に課題を取り組むことができる □仲間と協力して、技能の向上に努めている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □補助などを行えている	○	○	○	
12	＜体育理論（スポーツの発祥と発展）＞ ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	□スポーツの経済的価値について説明できる □フェアプレイ、スポーツ精神を説明できる □スポーツと環境問題の関係を説明できる	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 学習プリント 発問評価 定期考査
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　ｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟ高校ｽﾎﾟｰﾂ 2022
科目名	体育	対象年次	1年（Bコース）	授業の進め方	教科書に沿って各種運動のルールと安全性について学び、実践を通して技能を身につける。
学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じた課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等 静的な運動（ストレッチ等） ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動（馬跳び）	□自己の心や体の状態にきづいているか □体の調子を整えている □仲間との交流を豊かにしている □動きを持続している □ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □巧みに動けている	○	○	○	授業態度（出席状況含む） 技能テスト 定期考査
2	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【学年末考査】	□味方の位置を把握して、プレーできる □ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □個人プレーではなく、集団プレーを行っている □声掛けを行えている □準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □安全に課題を取り組むことができる □ルールを理解している	○	○	○	
3	＜歩くスキー（ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ）＞ ・用具のつけ方 （スキーブーツ、スキー板、ストック） ・基本動作 （転び方、歩き方、体重移動）	□用具を正しく身につけられる □用具の片付け方を理解している □正しい構えをとることができる □基本動作を正確に行える □スムーズに体重移動を行える □安全に留意して、行うことができる	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店　　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　　図説　現代高等保健
科目名	保健	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 　また、喫煙・飲酒等に興味を示す高校一年次に、正しい知識を身につけさせ、健康の保持増進に努めるように指導する。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	1単元　現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち ②私たちの健康のすがた ③生活習慣病の予防と回復	□さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる □健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる □わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる □わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる □生活習慣病の種類と要因について説明できる □生活習慣病の一次予防と二次予防について説明できる	○	○	○	授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 レポート
5	④がんの原因と予防 ⑤がんの治療と回復 ⑥運動と健康 ⑦食事と健康	□がんの種類や原因について説明できる □がんの一次予防と二次予防について説明できる □がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる □がんに関する社会的な対策について説明できる □健康と運動の関係を説明できる □目的に応じた健康的な運動のしかたについて説明できる □食事と健康の関係について説明できる □健康的な食事のとり方について説明できる	○	○	○	
6	⑧休養・睡眠と健康 ⑨喫煙と健康 ⑩飲酒と健康 ⑪薬物乱用と健康 【期末考査】	□健康と休養の関係、適切な休養のとり方について説明できる □健康と睡眠の関係、健康によい睡眠のとり方について説明できる □喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる □喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる □飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる □飲酒の対策について、例をあげて説明できる □薬物乱用の様々な影響について説明できる □個人や社会環境への対策例をあげることができる	○	○	○	
7	⑫精神疾患の特徴 ⑬精神疾患の予防 ⑭精神疾患からの回復	□精神疾患の発病の要因とおもな症状について説明できる □現代社会における精神保健の課題をあげることができる □精神疾患を予防する方法について説明できる □精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる □精神疾患の治療について例をあげて説明できる □治療や回復には、どのような社会環境が必要か説明できる	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店　　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　　図説　現代高等保健
科目名	保健	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 　また、喫煙・飲酒等に興味を示す高校一年次に、正しい知識を身につけさせ、健康の保持増進に努めるように指導する。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	⑮現代の感染症	□感染症とは何かについて説明できる □新興感染症と再興感染症が流行する要因を説明できる	○	○	○	授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 ポートフォリオ 発問評価 レポート
9	⑯感染症の予防	□感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる □感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる				
10	⑰性感染症・エイズとその予防 ⑱健康に関する意思決定・行動選択	□性感染症・エイズが他の感染症と異なる点について説明できる □予防と対策を個人と社会に分けて、例をあげることができる □意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる □適切な意思決定・行動選択の際の工夫について説明できる	○	○	○	
11	⑲健康に関する環境づくり 2単元　安全な社会生活 ①事故の現状と発生要因 【期末考査】	□社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる □ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる □事故の実態と被害の実態について説明できる □事故には様々な要因が関連していることについて説明できる	○	○	○	
12	②安全な社会の形成	□安全のために必要な個人の行動について説明できる □安全を確保するために必要な環境整備について説明できる	○	○	○	
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店　　現代高等保健体育 副教材：大修館書店　　図説　現代高等保健
科目名	保健	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を深めて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につけさせる。 　また、喫煙・飲酒等に興味を示す高校一年次に、正しい知識を身につけさせ、健康の保持増進に努めるように指導する。			学習方法 （留意点）	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力あるの生活を営む態度を養う。

月	単元･学習項目	学習内容･ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	③交通における安全 ④応急手当の意義とその基本	□交通事故防止における取り組みについて説明できる □交通事故における責任を3つに分けて説明できる □応急手当の意義について説明できる □傷病者の確認・観察するポイントをあげることができる	○	○	○	授業態度（出欠状況含） 定期考査 小テスト、学習プリント 提出課題 レポート 発問評価
2	⑤日常的な応急手当 【学年末考査】	□応急手当の手順や方法について説明できる □実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる				
3	⑥心肺蘇生法	□心肺蘇生法の方法と手順について説明できる □実際に、心肺蘇生法を行うことができる	○	○	○	
振り返り 反省						

教科名	保健体育	単位数	3（2）	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　ステップアップ高校スポーツ2021
科目名	体育	対象年次	2年(男子)	授業の進め方	各種の運動の実践を通して、個人の運動能力を多面的・総合的に高めるため、必修科目を多く設ける。
指導目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じて課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法（留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

＜評価の方法＞　・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点から行う。
・生徒同士が協同・協力し、共に運動技能・体力の向上に取り組むものを評価する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題	提出日
4	＜集団行動＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ふみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等） 静的な運動（ストレッチ等） ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（ささら踊り）	P376～P377 P8～P25 P298～P323	□ 集団行動の行動様式を実践することができる □ 集団の約束、決まりを守って行動する □ 自己の心や体の状態にきづいている □ 体の調子を整えている □ 仲間との交流を豊かにしている □ 動きを持続している □ 曲調に合わせて感情を込めて踊ることができる □ ささらを上手く使うことができる □ 振付に動と静のメリハリをつけることができる				
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走 ランニングフォーム、ペース走	P54～P83	□ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる □ 各区間の技術が向上している □ 記録を客観的に置き換えることができる □ 一定のペースを保つことができる				
6	＜サッカー＞ ・個人技能練習 ドリブル・パス・シュート練習 ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 個人技能・集団技能を合わせて、安全に留意してプレー 【期末考査】	P142～P161	□ 個人技能を修得することができる □ 集団技能を理解し、説明することができる □ 味方の位置を把握し、プレーすることができる □ 自分の役割を理解し、説明・行動できる □ 協同・協力して活動することができる □ ルールを理解している □ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる				
7	＜体育理論（運動・スポーツの学び方）＞ ・スポーツの技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム	教P116～P171	□ 運動技能と運動技術の違いについて説明できる □ 技能上達の段階を説明できる □ 運動技能を高める練習の方法例を挙げられる				
8 9	＜サッカー＞ ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 個人技能・集団技能を合わせて、安全に留意してプレー	P142～P161	□ 集団技能を理解し、説明することができる □ 味方の位置を把握し、プレーすることができる □ 自分の役割を理解し、説明・行動できる □ 空いているスペースを利用して攻めることができる □ 協同・協力して活動することができる □ ルールを理解している □ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる				
10	＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	P26～P37 P50～P53	□ 準備運動をしっかり行うことができる □ 自分の能力に適した課題を選択することができる □ 段階的に練習することができる □ 安全に課題に取り組むことができる □ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □ 形を崩さず技を行えている □ 仲間と協力して、補助や技能の向上に努めている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
11	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	P102～P123	□ 個人的技能を修得することができる □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる □ ルールを理解している				
12	＜体育理論（運動・スポーツの学び方）＞ ・技能と体力 ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保	教P116～P171	□ 体力の構成要素を説明することができる □ 体力トレーニングの計画を立てることができる □ 運動やスポーツの注意点を説明することができる				
1	＜体つくり運動＞ ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動（馬跳び）	P8～P25	□ 自己の心や体の状態に気付いている □ ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □ 巧みに動けている				
2	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【学年末考査】	P102～P123	□ 個人的技能を修得することができる □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる □ ルールを理解している				
3	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合（個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	P180～P199	□ 自分たちの実情にあったチーム作りができる □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 審判、副審、線審をすることができる □ ルールを理解している □ 個人的技能を修得することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる				

教科名	保健体育	単位数	3（1）	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　ステップアップ高校スポーツ2021
科目名	体育（武道）	対象年次	2年(男子)	授業の進め方	各種の運動の実践を通して、個人の運動能力を多面的・総合的に高めるため、必修科目を多く設ける。
指導目標	剣道における基本動作、基本打突を正しく学び、得意技を増やし効果的な技を身につけさせる。また、有効打突の意味を理解、試合をする。さらに、対人技能を正しく身につけ活動を通して、公正、協力、責任などの態度を育てることを目標とする。			学習方法（留意点）	・剣道の防具、竹刀等を準備する ・3学期以降は安全面に配慮し、球技を実施する

＜評価の方法＞　・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点から行う。
・単に運動技能が高いだけでなく、何事にも全力で取り組む者を評価する。

＜提出物＞

月	単元･学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題	提出日
4	＜剣道における基本・礼法＞ ・防具のつけ方 （手ぬぐい・垂・胴・面のつけ方） ・礼儀作法、蹲踞の姿勢 （正座・座礼・立礼・自然体・蹲踞の仕方）	P284 ～ P297	□ 剣道における礼法を身につけ、実践できる □ 防具を正しく身につけられる □ 蹲踞の姿勢がうまくできる □ 竹刀を正しく握ることができる □ 防具の片付け方を理解している				
5	＜基本動作＞ ・構え、体さばき、素振り ＜基本打突＞ ・正面打ち、小手打ち、胴打ち、突き		□ 気剣体の一致を理解し、説明できる □ 送り足で前後左右スムーズに動ける □ 上下、斜め、胴の素振りを正しく行える □ 面、小手、胴を打つことができる □ 間合いや体さばきを理解して実践できる □ 竹刀や防具の打たせ方を理解している □ 正しい構えをとることができる				
6	＜対人的技能＞ ・攻め、隙への打突、出ばな技、しかけ技、応じ技 ・「構えの隙」「守りの隙」への打突 ・攻めからの基本技 ＜約束稽古＞ ・打つ役、打たせ役を決め、技の習得を図る		□ 対人的技能の意味を理解した技になっている □ 面、小手、胴を目的に応じ、打たせられる □ 1つの技を正確に行うことができる □ 姿勢をまっすぐに構えることができる □ 打突後も勢いを出し続けられる □ 約束稽古の意味を理解し実践できている □ 自己の能力に応じた技に取り組めている □ どの状況でも剣先は相手ののどに向いている □ 対人的技能の意味を理解した技になっている				
7	【期末考査】 ＜約束掛かり稽古＞ ・10秒から15秒の間で連続打突を行う		□ 気合いの入れ方、高め方に取り組めている □ 練習の意味を理解し、説明できる □ 順番を決めて、隙への打突を正確にできる □ 連続打突を、正確に速く行うことができる				
8		P284 ～ P297					
9	＜互格稽古＞ ・自由に技を出し、守り、応じる練習		□ 実践で効果的な技になっているか検証できる □ 相手をよく観察し、それに対応できる □ 状況に応じて、多彩な技を使い分けられる □ 得意技を身につけることができる □ 対人的技能を高める □ 引き技を身につけられている				
10	＜攻めと守りの試合＞ ＜技を限定した試合＞		□ 自分から進んで攻めることができる □ 効果的に技を増やすことができる □ 連続技を使って攻めることができる □ 剣先を上下に使って攻めることができる □ 限られた技を有効に利用できる □ 相手の構えを崩すことができる □ ルールを理解している				
11	＜簡易試合・正式試合＞ ＜自己評価＞		□ 攻めと守りの切り替えができる □ 安全に留意して、行うことができる □ ルールを理解し、審判を行うことができる □ 礼法を正しく行うことができている □ 得意技を中心とした試合展開ができている □ 課題の達成度・反省、剣道を理解できている				
12	【期末考査】						
1	＜バドミントン＞ ・個人技能 （各種ストローク、サービス、ルールなど） ・集団技能 （攻撃側と守備側のパートナーとの連携）	P242～P247	□ 個人的技能を修得することができる □ 安全に課題を取り組むことができる □ ルールを理解している □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
2	＜バスケットボール＞ ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【学年末考査】	P113～P123	□ 味方の位置を把握して、プレーできる □ 安全に課題を取り組むことができる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
3							

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　ステップアップ高校スポーツ2021
科目名	体育	対象年次	2年(女子)	授業の進め方	各種の運動の実践を通して、個人の運動能力を多面的・総合的に高めるため、必修科目を多く設ける。
指導目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じて課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

＜評価の方法＞　・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点から行う。
・生徒同士が協同・協力し、共に運動技能・体力の向上に取り組むものを評価する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題	提出日
4	＜集団行動・体育理論＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ふみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等） 静的な運動（ストレッチ等） ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（手踊り）	P376～P377 P8～P25	□ 集団行動の行動様式を実践することができる □ 集団の約束、決まりを守って行動する □ 自己の心や体の状態にきづいている □ 体の調子を整えている □ 仲間との交流を豊かにしている □ 動きを持続している □ 曲調に合わせて滑らかに踊ることができる □ 感情を込めた繊細な踊りをすることができる □ 動きの修正や確認ができる				
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走 ランニングフォーム、ペース走	P54～P83	□ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる □ 各区間の技術が向上している □ 記録を客観的に置き換えることができる □ 一定のペースを保つことができる				
6	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合（個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【期末考査】	P180～P199	□ 自分たちの実情にあったチーム作りができる □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 審判、副審、線審をすることができる □ ルールを理解している □ 個人的技能を修得することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる				
7	＜体育理論（運動・スポーツの学び方）＞ ・スポーツの技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム	教P116～P171	□ 運動技能と運動技術の違いについて説明できる □ 技能上達の段階を説明できる □ 運動技能を高める練習の方法例を挙げられる				
8 9	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合（個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	P180～P199	□ 自分たちの実情にあったチーム作りができる □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 審判、副審、線審をすることができる □ ルールを理解している □ 個人的技能を修得することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる				
10	＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	P26～P37 P50～P53	□ 準備運動をしっかり行うことができる □ 自分の能力に適した課題を選択することができる □ 段階的に練習することができる □ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □ 形を崩さず技を行えている □ 安全に課題取り組むことができる □ 仲間と協力して、補助や技能の向上に努めている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる				
11	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） 【期末考査】	P102～P123	□ 個人的技能を修得することができる □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ 安全に課題に取り組むことができる				
12	＜体育理論（運動・スポーツの学び方）＞ ・技能と体力 ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保	教P116～P171	□ 体力の構成要素を説明することができる □ 体力トレーニングの計画を立てることができる □ 運動やスポーツの注意点を説明することができる				
1	＜体つくり運動＞ ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動（馬跳び）	P8～P25	□ ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □ 巧みに動けている				
2	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う） 【学年末考査】	P102～P123	□ 個人的技能を修得することができる □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる □ ルールを理解している				
3	＜バドミントン＞ ・個人技能 （各種ストローク、サービス、ルールなど） ・集団技能 （攻撃側と守備側のパートナーとの連携）	P236～P247	□ 個人的技能を修得することができる □ 安全に課題を取り組むことができる □ ルールを理解している □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題を取り組むことができる				

教科名	保健体育	単位数	1	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　図説　現代高等保健　改訂版
科目名	保健	対象年次	2年	授業の進め方	教科書を中心に実施する。
指導目標	老後までを見通した健康の在り方について学習し、各段階における健康課題に応じて、自己の健康管理を適切に実践できる力を身に付ける。思春期の男女の変化について理解し、妊娠・出産・結婚生活といった将来設計を立てられるよう実践力を養う。			学習方法（留意点）	①予習：教科書を読んでおく。 ②復習：ノートを自分なりにまとめる。

＜評価の方法＞
3項目の観点別評価を行い、定期考査・学習態度・ノート提出とその内容から総合的に評価する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題	提出日
5	①思春期と健康 ・思春期の体と健康 ・思春期の心と健康 ②性意識と性行動の選択 ・性意識の男女差と性的欲求 ・性に関する情報と性行動	P64～P65 P66～P67	□ 思春期における体の発達の特徴が説明できる □ 行動面・心理面の特徴を説明できる □ 生殖器について名称を答えられる □ 性意識の男女差について説明できる □ 情報がおよぼす性行動への影響を説明できる □ 正しい意志決定・行動選択を理解している				
	③結婚生活と健康 ・心身の発達と健康な結婚生活 ・結婚生活と家族の健康 ④妊娠・出産と健康 ・受精、妊娠、出産 ・妊娠、出産期の健康のために	P68～P69 P70～P71	□ 健康な結婚生活を送る留意点を説明できる □ 結婚生活と健康づくりの関係を説明できる □ 受精・妊娠・出産の過程を説明できる □ 妊娠・出産期の健康の留意点を説明できる □ 生活上の注意点と周囲の支援を説明できる				
6	⑤家族計画と人工妊娠中絶 ・家族計画の意義 ・避妊法とその選択 ・人工妊娠中絶 ⑥加齢と健康 ・加齢にともなう心身の変化 ・中高年期を健やかにすごすために	P72～P73 P74～P75	□ 人工妊娠中絶の条件、影響を説明できる □ 健康上の家族計画の意義について説明できる □ 避妊法を選択する際の留意点を説明できる □ 加齢の心身の変化について説明できる □ 中高年期を過ごすうえでの留意点を説明できる □ 病気の予防について説明できる				
7	【期末考査】 ⑦高齢者のための社会的とりくみ ・高齢者の健康とその支援 ・高齢者の健康課題と保健、医療、福祉の連携	P76～P77	□ 高齢社会の保健、医療、福祉の連携を説明できる □ 高齢者の生活・健康の現状を説明できる □ 健康課題について説明できる	ノート（考査範囲）	考査実施日		
8							
9	⑧保健制度とその活用 ・保健行政の役割と健康づくり ・保健サービスの活用 ⑨医療制度とその活用 ・医療制度と医療保険のしくみ ・医療機関と医療サービスの活用	P80～P81 P82～P83	□ 保健サービスの内容とその活用法を説明できる □ 保健行政の役割としくみを説明できる □ 医療保険の仕組みを例を例をあげて説明できる □ 医療制度の特徴を説明できる □ インフォームド・コンセントを説明できる				
10	⑩医薬品と健康 ・医薬品の種類と使い方 ・医薬品の安全性のための対策 ⑪さまざまな保健活動や対策 ・健康づくりのための活動 ・民間機関の保健活動 ・国際機関の保健活動 (3)社会生活と健康 ①大気汚染と健康 ・大気汚染とその原因と健康影響 ・大気にかかわる地球規模の問題	P84～P85 P86～P87 P90～P91	□ 医薬品の種類を説明できる □ 主作用・副作用について説明できる □ 健康日本21を説明できる □ 世界的に保健活動をしている団体を説明できる □ 大気汚染の原因物質を挙げ、説明できる □ 大気汚染による健康影響を説明できる □ 環境問題の例を挙げることができる				
11	②水質汚濁・土壌汚染と健康 ・水質汚濁とその健康影響 ・土壌汚染とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり ③健康被害の防止と環境対策 ・環境汚染の防止とその対策 ・産業廃棄物の処理と健康 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり ④環境衛生活動のしくみと働き ・ごみの処理 ・上下水道の整備とし尿の処理	P92～P93 P94～P95 P98～P99	□ 水質汚濁の原因物質を挙げ、説明できる □ 水質汚濁の健康影響を説明できる □ 環境汚染の防止、改善について説明できる □ 産業廃棄物の処理と健康について説明できる □ ごみ処理の過程を説明できる □ 上下水道の整備について説明できる □ ごみの分別ができる				
12	【期末考査】 ⑤食品衛生活動のしくみと働き ・食品の安全性 ・行政や製造・加工者による衛生管理	P100～P101	□ 衛生管理のための対策例をあげることができる □ 食品製造過程における問題点を説明できる □ 行政の役割について説明できる	ノート（考査範囲）	考査実施日		
1	⑥食品と環境の保健と私たち ・食品の安全と私たちの役割 ・環境の保健と私たちの役割 ⑦働くことと健康 ・働くことと健康のかかわり ・働き方と健康問題の変化	P102～P103 P104～P105	□ 食の安全性の対策例をあげられる □ 食中毒予防の三原則を説明できる □ 環境への負担の少ない廃棄方法を説明できる □ 働くことと健康が影響する例をあげられる □ 健康問題の対策例をあげられる □ 職場環境における健康問題を説明できる				
2	⑧労働災害と健康 ・労働災害とその防止 ・安全管理と健康管理のしくみ ⑨健康的な職業生活 ・職場における取り組み ・日常生活における取り組み 【学年末考査】	P106～P107 P108～P109	□ 労働災害の防止対策をあげることができる □ 職業病と予防策の例をあげられる □ 健康管理の必要性について説明できる □ 職場の健康増進対策のついて説明できる □ 日常生活での健康増進について説明できる □ 余暇の活動の例をあげられる	ノート（考査範囲）	考査実施日		
3							

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　ステップアップ高校スポーツ2019
科目名	体育	対象年次	3年(男子)	授業の進め方	各種の運動の実践を通して、個人の運動能力を多面的・総合的に高めるため、必修科目を多く設ける。
指導目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じて課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、主体的に運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

＜評価の方法＞　・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点から行う。
・生徒同士が協同・協力し、共に運動技能・体力の向上に取り組むものを評価する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲(問題番号)	提出日	追加課題	提出日
4	＜集団行動＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ふみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等） 静的な運動（ストレッチ等） ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（ささら踊り）	P376～P377 P8～P25 P298～P323	□ 集団行動の行動様式を実践することができる □ 集団の約束、決まりを守って行動する □ 自己の心や体の状態にきづいている □ 体の調子を整えている □ 仲間との交流を豊かにしている □ 動きを持続している □ 曲調に合わせて感情を込めて踊ることができる □ 笠を自在に扱うことができる □ 振付に動と静のメリハリをつけることができる				
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走（3,000m程度） ランニングフォーム、ペース走	P26～P53	□ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる □ 各区間の技術が向上している □ 記録を客観的に置き換えることができる □ 一定のペースを保つことができる				
6	＜サッカー＞ ・個人技能練習 ドリブル・パス・シュート練習 ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 個人技能・集団技能を合わせて、安全に留意してプレー	P142～P161	□ 個人技能を修得することができる □ 状況に応じてキックを使い分けることができる □ 集団技能を理解し、説明することができる □ 味方の位置を把握し、プレーすることができる □ 自分の役割を理解し、説明・行動できる □ 空いているスペースを利用して攻めることができる □ 協同・協力して活動することができる □ ルールを理解している □ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる				
7	【期末考査】 ＜体育理論（豊かなスポーツライフの設計）＞ ・生涯スポーツの見方・考え方 スポーツ科学/スポーツに関わる職業 ・ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツライフの設計	教P116～P171	□ 社会におけるスポーツの役割を説明できる □ スポーツに関わる職業を説明できる □ 生活とスポーツの関係を説明できる □ 自らのスポーツライフを設計できる				
8 9	＜サッカー＞ ・集団技能練習 攻撃・守備フォーメーション、セットプレー練習等 ・試合 個人技能・集団技能を合わせて、安全に留意してプレー ＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	P142～P161 P26～P37 P50～P53	□ 集団技能を理解し、説明することができる □ 味方の位置を把握し、プレーすることができる □ 自分の役割を理解し、説明・行動できる □ 空いているスペースを利用して攻めることができる □ 協同・協力して活動することができる □ ルールを理解している □ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 準備運動をしっかり行うことができる □ 自分の能力に適した課題を選択することができる □ 段階的に練習することができる □ 安全に課題に取り組むことができる □ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □ 形を崩さず技を行える □ 仲間と協力して、技能の向上に努めている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 補助などを行えている				
10	＜ソフトボール＞ ・個人技能練習 バッティング、スローイング、キャッチング、ベースランニング等 ・集団技能練習 キャッチボール、ノック・守備連携、ピッチング練習 トスバッティング、フリーバッティング	P248～P263	□ 審判を行うことができる □ 個人技能を修得することができる □ 集団技能を行う際、個人技能をいかせる □ 安全に充分留意して活動している □ チームで協力して活動している				
11	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能を組み合わせて行う）	P102～P123	□ 個人的技能を修得することができる □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題を取り組むことができる □ ルールを理解している				
12	【期末考査】 ＜体育理論（豊かなスポーツライフの設計）＞ ・日本のスポーツ振興 世界のスポーツ振興 ・スポーツと環境	教P116～P171	□ 地域とスポーツの関わりを説明できる □ 世界のスポーツの取り組みを理解する □ スポーツと環境問題の関係を説明できる				
1	＜体つくり運動＞ ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動	P8～P25	□ 自己の心や体の状態にきづいている □ ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □ 巧みに動けている				
2	【学年末考査】						
3							

教科名	保健体育	単位数	3	使用教材	教科書：大修館書店　現代高等保健体育 改訂版 副教材：大修館書店　ステップアップ高校スポーツ2020
科目名	体育	対象年次	3年(女子)	授業の進め方	各種の運動の実践を通して、個人の運動能力を多面的・総合的に高めるため、必修科目を多く設ける。
指導目標	各種の運動の合理的な実践を通して、個人の能力・技能に応じて課題を定め解決することにより、運動の楽しさや喜びを感じさせる。また、主体的に運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。集団行動を通して、集団の約束事・決まり事を守れるように指導する。			学習方法 （留意点）	・体育服、シューズ（内・外）の準備をすること

＜評価の方法＞　・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点から行う。
・生徒同士が協同・協力し、共に運動技能・体力の向上に取り組むものを評価する。

＜提出物＞

月	単元・学習項目	頁	学習目標(評価規準)	課題の範囲（問題番号）	提出日	追加課題	提出日
4	＜集団行動＞ ・姿勢、方向転換、集合、列の増減、行進、足ふみ、礼、開列 ＜体つくり運動＞ ・体ほぐしの運動 音楽に乗った律動的な運動（イス取りゲーム等） 静的な運動（ストレッチ等） ＜ダンス＞ ・民謡 こきりこ（手踊り）	P376～P377 P8～P25	□ 集団行動の行動様式を実践することができる □ 集団の約束、決まりを守って行動する □ 自己の心や体の状態にきづいている □ 体の調子を整えている □ 仲間との交流を豊かにしている □ 動きを持続している □ 曲調に合わせて滑らかに踊ることができる □ 感情を込めた繊細な踊りをすることができる □ 動きの修正や確認ができる				
5	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m～100m） スタート練習、中間疾走、フィニッシュ ・長距離走（3,000m程度） ランニングフォーム、ペース走	P54～P83	□ 自己の体力・能力を最大限に発揮できる □ 各区間の技術が向上している □ 記録を客観的に置き換えることができる □ 一定のペースを保つことができる				
6	＜バスケットボール＞ ・個人技能 （パス、シュート、ドリブル） ・集団技能 （ゾーンディフェンス、ゾーンプレス） ・試合 （個人技能と集団技能をくみあわせて行う）	P102～P123	□ 味方の位置を把握して、プレーできる □ 個人技能を修得することが出来る □ 味方の位置を把握して、プレーできる □ ゲームにおいて自分の役割を把握し、説明できる □ 個人プレーではなく、集団プレーを行っている □ 声掛けを行えている □ ルールを理解している □ 協力して試合を行うことができる □ 準備後片付けなど、積極的に取り組んでいる				
7	【期末考査】 ＜体育理論（豊かなスポーツライフの設計）＞ ・生涯スポーツの見方・考え方 スポーツ科学/スポーツに関わる職業 ・ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツライフの設計	P116～P171	□ 社会におけるスポーツの役割を説明できる □ スポーツに関わる職業を説明できる □ 生活とスポーツの関係を説明できる □ 自らのスポーツライフを設計できる				
8 9	＜バレーボール＞ ・個人技能 （トス、スパイク、サーブ、ブロック） ・集団技能 （ブロックシステム、レシーブの関係作り） ・試合	P180～P199	□ 自分たちの実情にあったチーム作りができる □ 自分の役割を理解し、説明することができる □ 審判、副審、線審をすることができる □ ルールを理解している □ 個人技能を修得することができる □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 安全に課題に取り組むことができる				
10	＜ソフトボール＞ ・個人技能練習 バッティング、スローイング、キャッチング、ベースランニング等 ・集団技能練習 キャッチボール、ノック・守備連携、ピッチング練習 トスバッティング、フリーバッティング	P248～P263	□ 審判を行うことができる □ 個人技能を修得することができる □ 集団技能を行う際、個人技能をいかせる □ 安全に充分留意して活動している □ チームで協力して活動している				
11	＜器械運動＞ ・マット運動、跳び箱 ・基礎技能（屈伸系種目） ・発展系（伸身系種目）	P26～P37 P50～P53	□ 準備運動をしっかり行うことができる □ 自分の能力に適した課題を選択することができる □ 段階的に練習することができる □ 安全に課題に取り組むことができる □ 回転系の技でつま先、膝を伸ばして行える □ 形を崩さず技を行えている □ 仲間と協力して、技能の向上に努めている □ 準備片付けなど、積極的に取り組んでいる □ 補助などを行えている				
12	【期末考査】 ＜体育理論（豊かなスポーツライフの設計）＞ ・日本のスポーツ振興 世界のスポーツ振興 ・スポーツと環境	P116～P171	□ 地域とスポーツの関わりを説明できる □ 世界のスポーツの取り組みを理解する □ スポーツと環境問題の関係を説明できる				
1	＜体つくり運動＞ ・体力を高める運動 動きを持続させる運動等（集団大縄飛び） ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙな動きができる能力を高める運動（馬跳び）	P8～P25	□ 自己の心や体の状態にきづいている □ ｽﾋﾟｰﾃﾞｨｰ・ﾊﾟﾜﾌﾙに動けている □ 巧みに動けている				
2	【学年末考査】						
3							

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社） 補助教材　Music Note（啓降社）
科目名	音楽Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 （留意点）	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう ・校歌 ・「ヴォイス・トレーニング」 ・小さな空 ・’O　sole mio	曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。	○	○	○	観察
5	ボディー・パーカッションや“Cups”に挑戦しよう ・Plymoth Rock ・Cups	ボディー・パーカッションや身近にあるコップなどを用いたリズム表現を通して音色や奏法，表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう。	○	○	○	観察
	ソルフェージュ ・音符、リズムを正確に読む練習 ・メロディーを階名で歌う練習 ・リズムを打ちながらメロディーを歌う練習	曲にふさわしい奏法の知識、技能を身に付ける。 楽譜を読んで、正確にリズムを打ったり、メロディーを歌ったりする。	○	○	○	観察、問題演習
6	「コード進行」をもとにメロディーをつくろう ・「『コード進行』」をもとにメロディーをつくろう」 ・「コード・ネーム」	多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する。	○	○	○	観察、ワークシート、作品、発表
	情景を描く音楽を味わおう ・バレエ音楽≪火の鳥≫組曲（1919年版）	音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する。	○	○	○	観察、ワークシート
	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう 音楽の要素とイメージをつなげよう ・組曲≪動物の謝肉祭≫　サン＝サーンス	・音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き，曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに，根拠をもって曲や演奏を批評する。 ・実際にピアノ連弾で演奏する。 ・ピアノについて理解を深め、曲にふさわしい技能を身に付け表現を工夫して演奏する。 ・演奏する喜びを感じるとともに他者と音楽を共有し、音楽ならではの楽しさを味わう。	○	○	○	観察、ワークシート、発表
	歌詞と曲想との関わりを理解し、日本語の語感を生かして歌おう ・夏の思い出 ・この道	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して歌う。	○	○	○	観察、ワークシート

振り返り 反省	

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社） 補助教材　Music Note（啓降社）
科目名	音楽Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 （留意点）	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8	歌詞とリズムとの関わりを理解して歌おう ・オー・シャンゼリゼ	さまざまな言語による歌曲に親しみ，それぞれの特徴を理解するとともに，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，表現を工夫して独唱する	○	○	○	観察、ワークシート
9	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう ・ストローク奏法を身に付け、ギターで弾き歌いをしよう ・日曜日よりの使者	曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりを理解し，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して演奏する	○	○	○	観察、ワークシート
10	ドイツ語の歌を歌おう 歌詞の意味を理解し、ドイツ語の語感を生かして独唱しよう ・Heidenröslein	ドイツ歌曲にふれ、曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わりを理解し，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方など の技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して歌う。	○	○	○	観察、ワークシート
11	さまざまな主題とその構成を聴き取ろう ・ベートーヴェン　交響曲第9番op.125《合唱付き》から第4楽章 【期末考査】	音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き，曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに，根拠をもって曲や演奏を批評する。	○	○	○	観察、ワークシート
12	声部の動きや重なりを意識してアンサンブルをしよう ・荒野の果てに	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解し，それを生かして歌ったり，他者との調和を意識して歌ったりする。技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して歌う。	○	○	○	観察
振り返り 反省						

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社） 補助教材　Music Note（啓降社）
科目名	音楽Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	教科書を中心にして学習し、ワークシートや補助教材を用いて進める。
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			学習方法 （留意点）	授業には教科書と補助教材、ワークシートを用いる。授業後や考査前はそれらを見直し復習する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	さまざまな日本の伝統音楽とその特徴を理解し、魅力を味わおう ・雅楽 ・能 ・箏曲 ・尺八楽	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して演奏する。	○	○	○	観察、ワークシート
	楽器の奏法を身に付け奏法によって音色や響き、表情などの違いを理解しよう。 ・箏 ・三味線	和楽器に親しみ，その音色や表現の特徴を味わうとともに，奏法を身に付け，曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し，表現を工夫して演奏する。	○	○	○	観察、ワークシート
2	郷土の民謡と芸能 ・各地に伝わる民謡や芸能に関心をもって、その表現の特徴を理解しよう	日本各地に伝わる多くの民謡や芸能を知るとともに芸能と私たちの生活との密接な関わりに気づき、親しみをもって理解を深める。	○	○	○	観察、ワークシート
	世界の諸民族の音楽 ・世界各地の音楽の特徴を知り、よさや美しさを感じ取ろう 【学年末考査】	世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解し，音楽表現の共通性や固有性について考えるとともに，曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付けながら，イメージをもって表現を工夫して歌う。	○	○	○	観察、ワークシート
3	What　is ZAZZ? ジャズの特徴を理解し、響きや雰囲気を味わおう	ジャズの歴史や特徴、ピアノ、ベース、ドラムスの役割、演奏の構成を理解し響きや雰囲気を味わって聴く。	○	○	○	観察、ワークシート
振り返り 反省						

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	高校美術
科目名	美術Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 （留意点）	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。	自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。	各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。 美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	□ オリエンテーション □ 作品鑑賞 □ 立方体を描く	□ 年間を通しての美術の学習内容を理解する。 □ 美術の多様性とその魅力を理解する。 □ 単純な図形の着彩によって色の持つ効果を知る。	○	○	○	・学習活動への参加の状況（制作への取組の姿や態度、授業中の発言、制作の準備） ・制作の初めや途中のスケッチや試作品など ・学習ノートの学習計画（課題や見通し）や学習記録（自己評価、相互評価など） ・制作した作品（完成度）
5	□ 風景を描く □ 合評会	□ 淡彩の技法を学ぶ。 □ 効果的な構図を工夫できる。 □ 季節感を活かした制作ができる。	○	○	○	
6 7	□ 絵画表現で表す想像の世界 □ 合評会	□ アイデアをの技法を知る。 □ 具体的な情景設定の構想を設定し表現することができる。 □ テーマを元に作品を制作できる。	○	○	○	

振り返り 反省	

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	高校美術
科目名	美術Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 （留意点）	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。	自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。	各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。 美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
8 9 10	□　塑像で表す想像の世界	□　塑像の技法を知る。 □　具体的な情景設定の構想を設定し表現することができる。 □　テーマを元に作品を制作できる。	○	○	○	・制作の初めや途中のスケッチや試作品など ・学習ノートの学習計画（課題や見通し）や学習記録（自己評価、相互評価など） ・制作した作品（完成度）
11 12	□　イラストレーション □　合評会	□　様々な技法を知る。 □　多様な表現の良さを感じ取る。 □　多様な価値観を認めることができる	○	○	○	
振り返り 反省						

教科名	芸術	単位数	2	使用教材	高校美術
科目名	美術Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	鑑賞、制作(表現)、自己・相互評価
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・表現活動を通して自己の価値観や他人の価値観を理解する態度を育む。			学習方法 （留意点）	・授業の目標を明確に理解する。 ・授業ごとに制作と評価を積み重ね、表現を深める。 ・完成作品について発表・鑑賞をし、自己評価・相互評価をする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方など、創作活動にかかわる基本的な知識・技能を身につけている。	自己の追及したい主題の構想を練り、多様な表現方法の理解に基づく効果的な表現方法を工夫している。	各単元の学習内容を具体的に理解し、主体的に取り組むことができる。 美術作品や自他の作品のよさや美しさを感じ取り理解できる。

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点			評価の方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 2 3	□　デジタルカメラを使ったアニメーションの制作 □　合評会	□　アニメーションの技法や試作ソフトの活用を知る。 □　アニメーションの良さを生かし効果的な映像表現することができる。 □　集団作品の良さを活かした制作ができる。	○	○	○	・学習活動への参加の状況（制作への取組の姿や態度、授業中の発言、制作の準備） ・制作の初めや途中のスケッチや試作品など ・学習ノートの学習計画（課題や見通し）や学習記録（自己評価、相互評価など） ・制作した作品（完成度）

振り返り 反省	

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書　東京書籍　家庭基礎　自立・共生・創造 副教材　第一学習社　2022新生活ハンドブック
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。
学習目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。			学習方法 （留意点）	社会の動向に目を向け、知識を得る。 自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。 対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	定期考査	課題提出　実習	課題提出　実習　授業アンケート

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	○ガイダンス　家庭科の学び方 ○生涯を見通す人生をつくる ・人生を展望する ・目標をもって生きる ・人生をつくる ・家族・家庭をみつめる	□ 家庭科の学び方を理解する。 □ 青年期の課題を理解し、目標をもって生きようとする。 □ 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 □ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 □ 仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出
5	○子どもと共に育つ ・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境	□ 命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任をもつために、性と生殖に関する健康について理解する。 □ 子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 □ 子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 □ 社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出 ・実習
6	○超高齢社会を共に生きる ・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢者の心身の特徴 ・これからの超高齢社会	□ 超高齢社会の背景を理解する。 □ 高齢者が生きがいをもって生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 □ 加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 □ 高齢者の自立を支えるためにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。				
7	○学習を生かす ・ホームプロジェクト　計画	□ ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解する。 □ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	・ワークシート ・レポート
振り返り 反省						

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書　東京書籍　家庭基礎　自立・共生・創造 副教材　第一学習社　2022新生活ハンドブック
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。
学習目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。			学習方法 （留意点）	社会の動向に目を向け、知識を得る。 自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。 対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	定期考査	課題提出　実習	課題提出　実習　授業アンケート

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8 9	○赤ちゃんふれあい体験	□ 子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。	○		○	・実習レポート
9 10 11	○食生活をつくる ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活	□ よりよい食生活を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 □ 安全で衛生的な食生活を営むために、食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 □ 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 □ 配膳やマナーに関心をもつ。 □ 郷土食や行事食などの良いところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 □ 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・課題提出 ・実習
11 12	○衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被覆を入手する ・被服を管理する ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活	□ 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 □ 被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 □ 手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。 □ 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習 ・課題提出
振り返り 反省						

教科名	家庭	単位数	2	使用教材	教科書　東京書籍　家庭基礎　自立・共生・創造 副教材　第一学習社　2022新生活ハンドブック
科目名	家庭基礎	対象年次	1年	授業の進め方	教科書、プリント、パワーポイントを用いて授業を行う。 実験、実習を多く取り入れる。
学習目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家族や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自ら学び考えることができる学習活動を通して、問題解決能力と実践的な態度を育てる。			学習方法 （留意点）	社会の動向に目を向け、知識を得る。 自分の身の回りや将来のことに関心をもち、責任を伴う意思決定をする。 対話的な学習活動を通して、様々な考え方があることを理解するとともに、協力して課題を解決しようとする。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	定期考査	課題提出　実習	課題提出　実習　授業アンケート

月	単元・学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
1	○住生活をつくる ・住生活の変遷と住居の機能 ・あんぜんで快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活	□ 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 □ 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート 実習
1 2	○経済生活を営む ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・これからの経済生活	□ 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 □ 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 □ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解する。 □ 生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 □ 大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国際経済のつながりについて理解する。	○	○	○	・ワークシート ・レポート ・実習
3	○私のライフプラン　人生をデザインしよう	□ 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。		○	○	・実習 ・レポート
振り返り 反省						

教科名	情報Ⅰ	単位数	2	使用教材	教科書：実教出版　情報Ⅰ web教材：Life is Tech ! Lesson 情報Ⅰ全対応コース
科目名	情報Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	web教材やワークシートを使用し、進める。 Microsoft officeを利用し、PowerPointやExcel、Wordの基本的な使用方法を学ぶ。
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	・コンピュータの基本的な操作を覚え、文書やプレゼンテーションのマテリアルを作成し、実践できるようにする。 ・教科書を用いた授業では予習や復習をし、知識の定着を図る。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報と情報技術を問題発見・解決に活用できるとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
4	オリエンテーション					
5	第1章　情報社会と私たち 1節　情報社会 1　情報社会と情報 2　情報の特性 3　情報のモラルと個人に及ぼす影響 2節　情報社会の法規と権利 1　知的財産 2　情報の利用と公開 3　個人情報の保護と管理 3節　情報社会が築く新しい社会 1　社会の中の情報デザイン 2　情報技術と課題解決	・情報社会の現状についてインターネット等で調べようとしている。 ・ビッグデータの意味を理解し、活用例をあげることができる。 ・情報化が進展する社会の特質について説明することができる。 ・情報の特性を活用した事例と，情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・SNSの活用など，不特定多数を対象としたコミュニケーションの注意点を挙げることができる。 ・ネット依存等，情報化が個人に及ぼす影響について考え，自らの情報活用について振り返り，改善しようとしている。 ・知的財産権が産業や文化の発展に与えている影響について説明することができる。 ・著作権の例外規定や著作物の利用条件にしたがって，著作物を適切に利用することができる。 ・個人情報およびプライバシーの概念を理解し，保護や管理の方法について説明することができる。 ・他人や自分の個人情報とプライバシーを適切に取り扱う際の注意点を挙げることができる。 ・社会の中の情報システムについて，興味や関心を持っている。 ・POSシステム，電子マネー，電子決済の仕組みを実例を挙げて説明することができる。 ・人工知能，IoT，仮想現実や拡張現実についてそれぞれ説明することができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	授業の様子 ワークシート 確認テスト 定期考査
6	第5章　問題解決とその方法 1節　問題解決 1　問題解決 2　問題の発見 3　問題の明確化 4　解決案の検討 5　解決案の決定 6　解決案の実施と評価	・問題発見のための現状分析の方法を考え，適切に選択できる。 ・主体的に問題解決に取り組み貢献しようとしている。 ・問題の解決案を検討するために，情報の収集・整理・資料作成をすることができる。 ・グループで合意を形成できるよう，適切な問題解決の計画を立案することができる。 ・問題解決の評価の方法について理解している。 ・試行錯誤しながら，粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。 ・問題解決の結果を振り返り，積極的に自己評価や相互評価を行い，改善を図ろうとしている。	 ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○ ○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
7	第2章　メディアとデザイン 1節　メディアとコミュニケーション 1　メディアの発達 2　メディアの特性 3　コミュニケーションの形態 4　インターネットのコミュニケーション 2節　情報デザイン 1　社会の中の情報デザイン 2　情報デザインの工夫	・メディアの機能や発達について説明することができる。 ・伝達する情報に応じて適切に表現メディアや情報メディアを選択して表現することができる。 ・情報の信憑性や信頼性について吟味し，情報の真意を読み解くことができる。 ・メディアから収集する情報を批判的に思考し，主体的に読み解こうとする態度を身に付けている。 ・コミュニケーションの形態や特性を考え，コミュニケーションの目的に沿った方法を選択することができる。 ・電子メールSNSなど，インターネットを利用する各種メディアとその特性について理解し、適切に利用することができる。 ・情報バリアフリー，ユニバーサルデザインの意味と目的について説明したり、身近な例を挙げることができる。 ・情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫，表やグラフ，配色の工夫など基本的な方法を理解している。 ・情報をわかりやすく伝達するために，文字や図，表やグラフなどを工夫して表現する学習活動を自ら進んで行い，評価を受けて改善を図ろうとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
振り返り 反省						

教科名	情報Ⅰ	単位数	2	使用教材	教科書：実教出版　情報Ⅰ web教材：Life is Tech ! Lesson 情報Ⅰ全対応コース
科目名	情報Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	web教材やワークシートを使用し、進める。 Microsoft officeを利用し、PowerPointやExcel、Wordの基本的な使用方法を学ぶ。
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	・コンピュータの基本的な操作を覚え、文書やプレゼンテーションのマテリアルを作成し、実践できるようにする。 ・教科書を用いた授業では予習や復習をし、知識の定着を図る。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報と情報技術を問題発見・解決に活用できるとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
8	2節　情報デザイン 1　社会の中の情報デザイン 2　情報デザインの工夫	・情報バリアフリー，ユニバーサルデザインの意味と目的について理解し、身近な例を挙げることができる。 ・効果的なコミュニケーションや問題解決のために，主体的に情報を整理したり，わかりやすく伝達したり，操作性を高めたりする努力をしようとしている。 ・情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫，表やグラフ，配色の工夫など基本的な方法を理解している。	○ ○	○ ○	○ ○	授業の様子 成果物 定期考査
9	3節　情報デザインの実践 1　文書の作成 2　プレゼンテーション 3　Webページ	・目的に沿って，情報を視覚化したり配色を考えて表現することができる。 ・文書の基本的なレイアウト，文字のフォントやスタイルなどについて理解するとともに，読みやすい報告書やレポートを作成することができる。 ・文献やインターネットから情報を収集したり，調査等を行って情報を収集したりすることができる。□ ・プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすいスライド資料を作成し，適切かつ効果的にプレゼンテーションを行うことができる。□ ・HTMLとCSSを用いて情報デザインを配慮したWebページを作成し，情報を公開することができる。 ・プレゼンテーションの実施やWebページの公開にあたって，情報伝達の目的に適合するコンテンツ制作に努め，試行錯誤しながら個人やグループのコンテンツ制作の技能を高めようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
10	第3章　システムとデジタル化 1節　情報システムの構成 1　コンピュータの構成と動作 2　ソフトウェアとインタフェース 2節　情報のデジタル化 1　アナログとデジタル 2　2進数と情報量 3　演算の仕組み 4　数値と文字の表現 5　数値の計算 6　音声の表現 7　静止画と動画の表現 8　情報のデータ量	・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。 ・コンピュータを構成する各装置の機能と相互の関係考え，適切に接続して動作させることができる。 ・ソフトウェアやハードウェア、OSなどの種類とその働きを説明することができ ・情報機器を相互に接続するために，適切なインタフェースを選択することができる。 ・スマートフォンなどの身近な情報機器について，性能の向上や発展的な活用の方法を考えようとしている。 ・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。 ・データの圧縮の種類や仕組みを理解し，適切に圧縮・解凍することができる。 ・情報のデジタル化について，より深く理解しようとしている。 ・2進数・10進数・16進数を相互に変換することができる。 ・2進数の加算や減算をすることができる。 ・コンピュータでの数値計算の誤差について説明することができる。 ・音声や画像、動画の情報をデジタル化するための原理を理解し、データ量を計算できる。 ・データ量から圧縮率や圧縮効率を求めることができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
11	第6章　アルゴリズムとプログラミング 1節　プログラミングの方法 1　アルゴリズムとその表記 2　プログラミング言語	・フローチャート，アクティビティ図，状態遷移図の描き方を理解し、表現できる ・アルゴリズムの基本制御構造（順次，選択，反復）の違いについて説明することができる。 ・基本制御構造（順次・選択・反復）を適切に用いて，簡単なアルゴリズムを表現できる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に，主体的に取り組んでいる。□	○ ○	○ ○	○	授業の様子 ワークシート 確認テスト 定期考査
12	2節　プログラミングの実践 1　プログラミングの方法 2　関数を使用したプログラム 3　探索と整列のプログラム	・プログラミング言語のおもな種類とその特徴を理解している。 ・プログラミングの目的や実行するコンピュータの種類を考慮して適切なプログラミング言語を選択できる。 ・変数や配列を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成することができる。 ・関数の概念を理解して関数を使用し，わかりやすく、効率的なプログラムを作成することができる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考え，粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。	○ ○ ○	○ ○	○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
振り返り 反省						

教科名	情報Ⅰ	単位数	2	使用教材	教科書：実教出版　情報Ⅰ web教材：Life is Tech ! Lesson 情報Ⅰ全対応コース
科目名	情報Ⅰ	対象年次	1年	授業の進め方	web教材やワークシートを使用し、進める。 Microsoft officeを利用し、PowerPointやExcel、Wordの基本的な使用方法を学ぶ。
学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。			学習方法 （留意点）	・コンピュータの基本的な操作を覚え、文書やプレゼンテーションのマテリアルを作成し、実践できるようにする。 ・教科書を用いた授業では予習や復習をし、知識の定着を図る。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報と情報技術を問題発見・解決に活用できるとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。

月	単元･学習項目	学習内容・ねらい	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
1	第4章　ネットワークとセキュリティ 1節　情報通信ネットワーク 1　ネットワーク構成 2　情報通信の取り決め 3　Webページとメールの仕組み 4　転送速度とデータ圧縮 2節　情報セキュリティ 1　脅威に対する安全対策 2　情報セキュリティの確保 3　安全のための情報技術	・通信方式の種類やその違いについて説明することができる。 ・LANを構成する機器について，それらの役割を説明することができる。 ・目的に沿って，LANを構成する情報機器の接続を適切に考えることができる。 ・インターネット通信の階層構造，各プロトコルの働きについて説明することができる。 ・IPアドレス，ドメイン名，ルーティングの基本的な仕組みや働きについて説明することができる。 ・WWWや電子メールなど，インターネットのサービスの内容と基本的な仕組みを説明することができる。 ・ファイルのデータを効率的に圧縮して転送することができる。 ・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。 ・パスワードの設定と管理について考え，適切に判断して実行することができる。 ・コンピュータウイルスなど，マルウェアの種類や被害の実態について理解し，その脅威について適切に対処することができる ・不正アクセスなどサイバー犯罪の種類や内容，被害の実態，およびその対策方法について説明することができる。 ・情報セキュリティの確保に向けて，目的に応じて，アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択することができる。 ・メッセージの送受信，デジタル署名，電子認証などに応用されている暗号化の方式と仕組みについてそれぞれ説明することができる。 ・暗号の利用など，情報セキュリティを維持するための技術に関心を持っている。 ・暗号化などの理解のもと，安全に情報を送受信するための仕組みを実際に活用しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	授業の様子 ワークシート 確認テスト 定期考査
2	第5章　問題解決とその方法 2節　データの活用 1　データの収集と整理 2　データ分析と表計算 3　データの可視化 4　データ分析の手法 5　データベースとは	・表計算ソフトを用いて適切にデータの並べ替えや抽出、関数の活用などができる。 ・問題解決の目的や内容に適したデータを選択して収集する力がある。 ・グラフの種類や機能を理解し，表計算ソフトを用いてデータを適切なグラフ化することができる。 ・クロス集計，相関係数を用いた分析，回帰分析を行うことができる。 ・問題解決のためのデータ分析を，試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。 ・リレーショナルデータベースとNoSQLの特徴を考慮して，格納するデータの性質や量に応じて選択できる。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
3	3節　モデル化 1　モデル化とシミュレーション 2　モデルの分類 3　モデル化の手順 4　モデル化の手法 5　モデル化をする時の注意	・モデル化およびシミュレーションが社会の問題解決でどのように利用されているかを例を挙げて説明することができる。 ・問題を整理したり，構造を明らかにしたりするために，図的モデルを作成することができる。 ・問題解決の目的に応じて，モデルに適用する要素を省略したり変更したりする必要があり，それに伴ってモデル自体が変化することを理解している。 ・現実の問題をモデル化するために，図的モデルや数式モデルを作成し，それらに基づいて表やグラフを作成することができる。 ・作成したモデルに対し，目的を達成しているかの観点で自己評価，および相互評価を行ってモデルの改善に努めようとする。	○ ○ ○	○ ○	 ○	授業の様子 ワークシート 成果物 確認テスト 定期考査
振り返り 反省						